



第2回 日本版NCAA設立準備委員会

平成30年10月22日(月)

10:00～13:00

第2回設立準備委員会の進め方

第2回設立準備委員会は、以下のスケジュールで進行いたします

時間	時間配分	発表者		議事
10:00～	5分	スポーツ庁		第2回設立準備委員会の進め方
10:05～	10分	スポーツ庁		議事(1) 日本版NCAA(仮称)の正式名称(案)について
10:15～	10分	スポーツ庁		議事(2) 日本版NCAA(仮称)の概要説明
10:25～	20分	テーマ15	木藤主査	議事(3) 日本版NCAA(仮称)の組織整備(案)について
10:45～	10分	質疑応答・決議		
10:55～	15分	テーマ14	池田(敦)主査	議事(4) パートナー・スポンサープログラム(案)について
11:10～	10分	質疑応答・決議		
11:20～	10分	休憩		
11:30～	65分	テーマ1～13	各主査	議事(5) 作業部会各テーマの進捗報告
12:35～	15分	質疑応答		
12:50～	5分	スポーツ庁		第3回設立準備委員会のご案内
12:55		スポーツ庁		閉会

議事(2)

日本版NCAA(仮称)の
概要説明

日本版NCAA(仮称)の概要説明

資料2をご参照

議事(3)

日本版NCAA(仮称)の 組織整備(案)について

スポーツ庁 参与
木藤 友規

【事業・マーケティング】テーマ⑮ 組織整備

資料3、資料4、資料5、資料6、資料7、資料8をご参照

議事(4)

パートナー・スポンサープログラム (案)について

仙台大学 体育学部 教授
池田 敦司 氏

【事業・マーケティング】テーマ⑭ パートナー・スポンサープログラム

資料9をご参照

議事(5)

作業部会各テーマの進捗報告

テーマ1

入学前からの動機付け

立命館大学 スポーツ健康科学部 学部長
伊坂 忠夫 氏

テーマ

【学業充実】 入学前からの動機付け

第4回作業部会(10/15)における報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① 入学前教育の目的と到達目標の検討。
- ② 入学前教育に必要とされる項目の抽出と段階の設定。
- ③ 入学前教育の実施モデルの検討。

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 入学前教育の段階別名称が課題(現時点では仮名称)。
- ② 入学前教育の各項目概要の必要性。

他テーマへの申し送り事項

次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① 入学前教育の段階別項目の決定。
- ② 入学前教育の各項目の概要の決定。

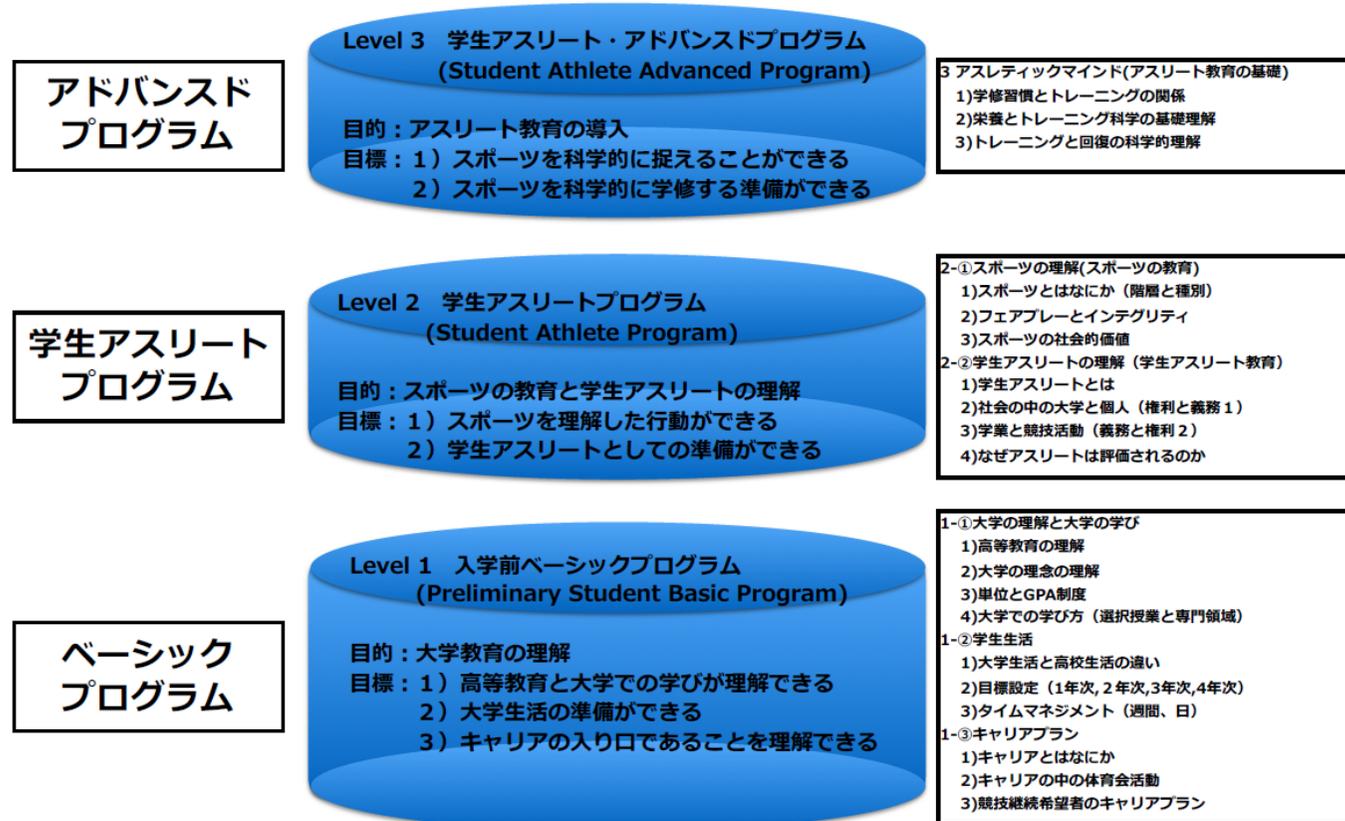
テーマ

【学業充実】 入学前からの動機付け

添付資料

資料①

学業①入学前からの動機づけ素案 2018/10/15 第4回作業部会用案



最終目標：日本版NCAAの入学前プログラムを策定し各大学へ実施を呼びかけ

テーマ

【学業充実】 入学前からの動機付け

添付資料

資料②

項目案(20項目)

ベーシックプログラム

1-①大学の理解と大学の学び

高等教育、大学となにか？大学の制度や評価、履修方法の理解。

1)高等教育の理解

わが国の最高教育機関、義務教育ではない。自らが希望して入学。

2)大学の理念の理解

各大学には理念がある。その理念に賛同して入学。理念の理解。

3)単位とGPA制度

単位制度の理解（自習時間の必要性）、成績評価の理解(高校との違い)

4)大学での学び方（選択授業と専門領域）

単位選択制の理解。学部で入学許可。一般教養と専門科目の理解。

1-②学生生活

指定された時間割でないため、自らの計画性が重要であることの理解。

1)大学生生活と高校生活の違い

高校は時間割指定でクラス同一。大学は各自が異なるスケジュール。

2)目標設定（1年次,2年次,3年次,4年次）

社会に出る=就職。4年ではなく3年の半ばから就活が始まる。将来目標。

3)タイムマネジメント（週間、日）

将来目標から逆算。授業外活動を含めた日、週間の時間管理の理解。

1-③キャリアプラン

自らのキャリアに関して就職活動だけでなくライフプランの意識付け。

1)キャリアとなにか

就職、その後の人生を豊かにするためにはプランの必要性を理解する。

2)キャリアの中の体育会活動

時間がない体育会学生のための効率的活動と他者に無い長所の理解。

3)競技継続希望者の就活

理解のある企業、新規開拓、プロ志望者を含め2nd,3rdキャリアの意識。

学生アスリートプログラム

2-①スポーツの理解(スポーツの教育)

多くの学生アスリートが理解していないスポーツの本質や価値について。

1)スポーツとはなにか（階層と種別）

高度化や大衆化、スポーツの捉え方の種別についての理解。

2)フェアプレーとインテグリティ

フェアプレー精神とスポーツの純粋さ高貴の理解。

3)スポーツの社会的価値

現代社会とスポーツの相互関係からスポーツの社会的価値を理解する。

2-②学生アスリート（学生アスリート教育）

大学に学生として入学。その中でアスリート活動で行っていることの理解

1)学生アスリートとは

学生の行うアスリート活動の理解。

2)社会の中の大学と個人（権利と義務1）

個人の権利とともに大学の一人として、社会に生きる者としての責務。

3)学業と競技活動（権利と義務2）

大学生は学業を修めることが目的であり、同時に競技活動を行っている。

4)なぜアスリートは評価されるのか

アスリートが評価されるのは競技成績ではない、その過程が評価される。

3 アスレティックマインド(アスリート教育の基礎)

アスリート活動を行う学生に対してパフォーマンスから学修意欲を高める

1)学修習慣とトレーニングの関係

学修習慣とトレーニングの類似性、その相関性を理解する。

2)栄養とトレーニング科学の基礎理解

パフォーマンス向上のための栄養知識の視点から科学的理解を促す。

3)トレーニングと回復の科学的理解

パフォーマンス向上のためのトレーニングと回復の関係性の科学的理解。

アドバンスプログラム

これらをテーマとした 1) ワークショップ, 2) 次回への課題提示, 3) 課題発表（グループワーク等）
指導者も教育補助者として参加義務化→高校へ内容+状況+成績等の報告（データ化）

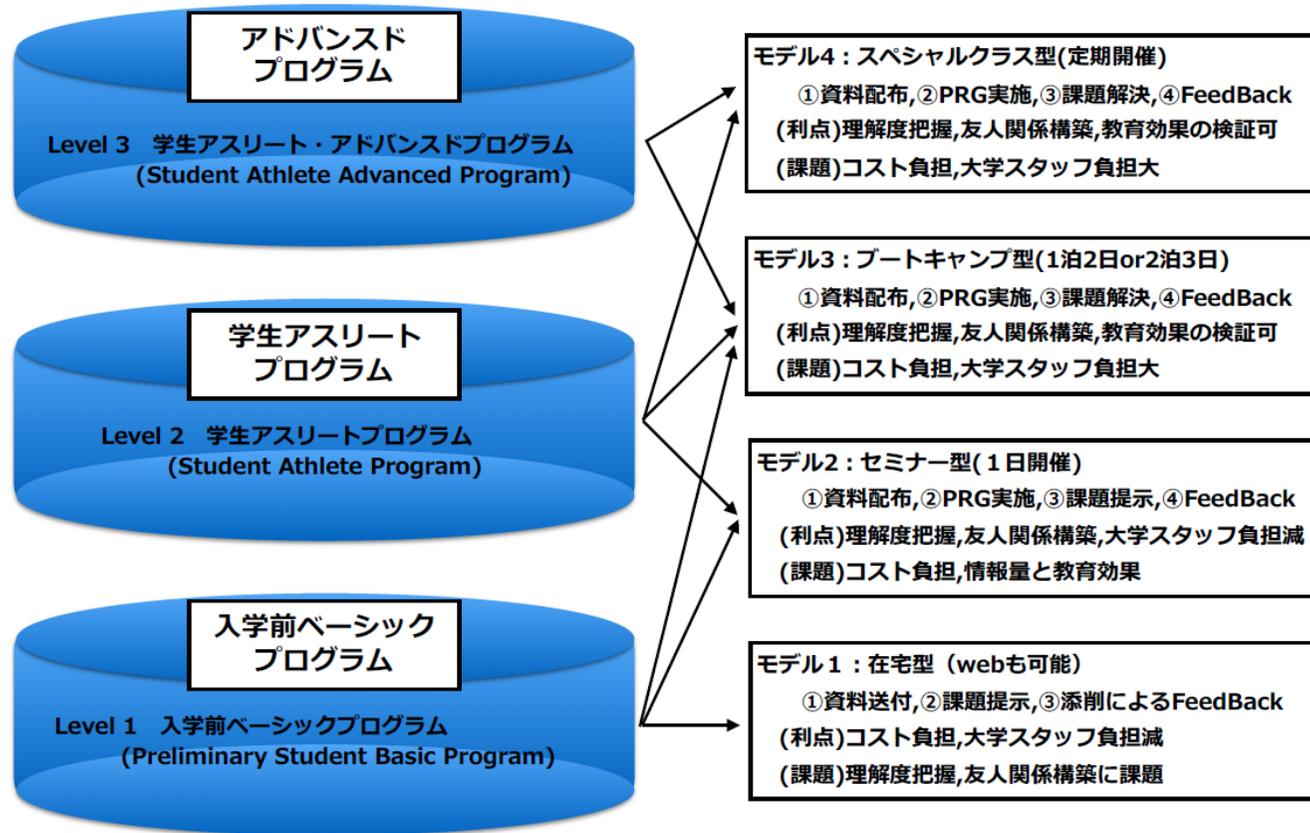
テーマ

【学業充実】 入学前からの動機付け

添付資料

資料③

段階別実施モデル



最終目標：日本版NCAAの入学前プログラムを策定し各大学へ実施を呼びかけ

テーマ2

学修機会確保

全日本学生テニス連盟 事務局長
植野 恵子 氏(主査代理)

テーマ

【学業充実】学修機会確保

第4回作業部会(10/15)における報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① 大会・試合日程調整のフローの検討
- ② 指導者セミナーの研修内容の検討
部会⑧(指導者研修)と調整し、「指導者倫理(コーチング哲学)」と「学業の重要性」について、担当することになった。

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 学連および大学対象アンケートの集計が10月下旬になる。
- ② 大会・試合日程調整案には、アンケート結果を参考にして、事例を盛り込みたい。
- ③ 「欠席配慮願い」が誤解を生みやすいので、修正する必要がある。

他テーマへの申し送り事項

- ① 学連および大学対象アンケート調査の集計が10月下旬となる。
- ② 学連の代表を集めて、検討会を開催したい。(調査結果を踏まえて)

次回の作業部会における報告事項(予定)

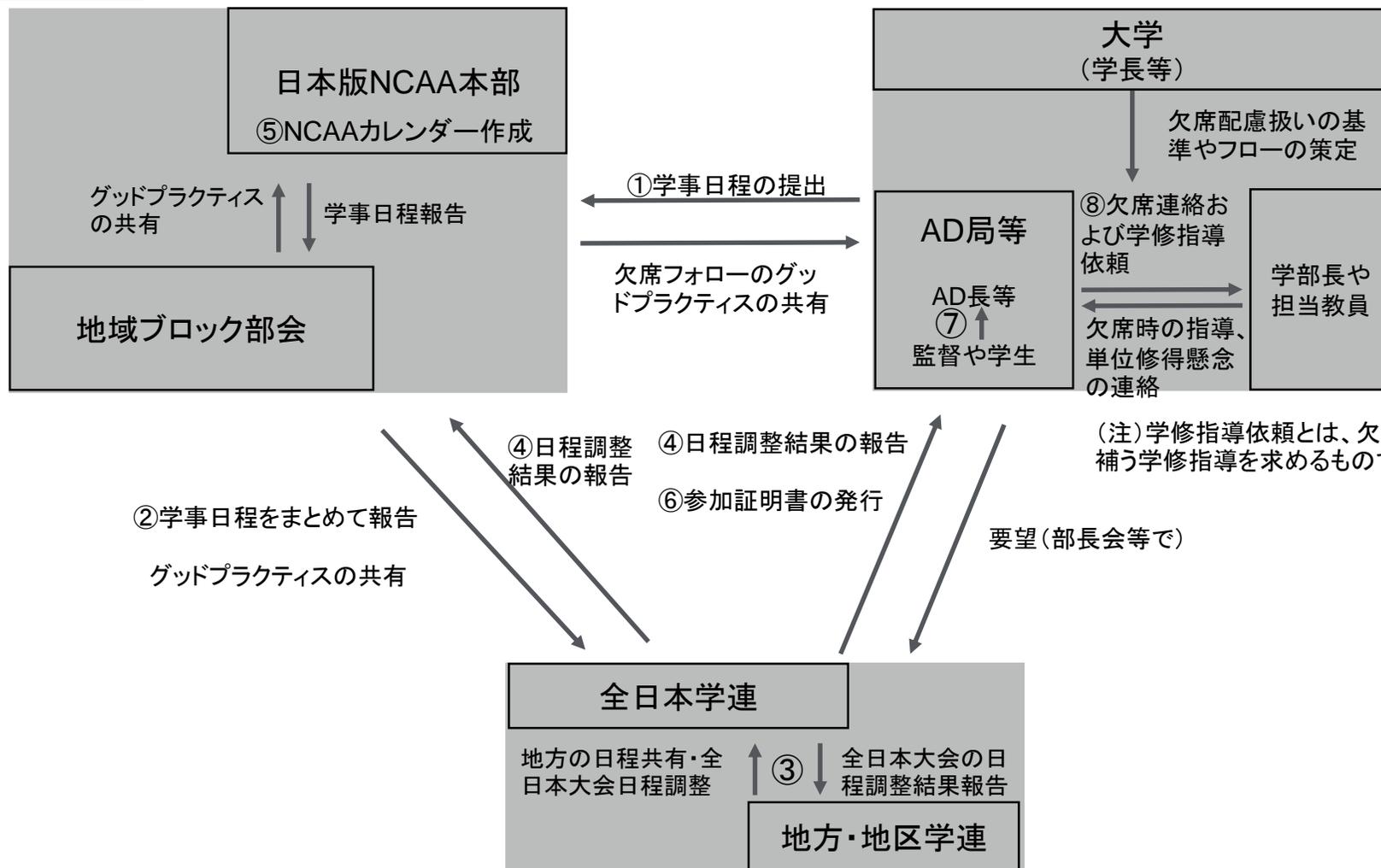
- ① 学連および大学対象アンケート結果の速報
- ② 試合日程調整案
- ③ 指導者セミナー案(内容、方法等)

テーマ

【学業充実】学修機会確保A 日程調整

添付資料

＜会員大学の学事日程を考慮したり、平日開催を避けるために、日程調整を行う。＞



テーマ

【学業充実】学修機会確保B 指導者セミナー

添付資料

指導者セミナーの研修内容案

(作業部会⑧で検討しているAD局長などを対象に行う指導者研修の内容の一部)

1. 指導者倫理(コーチング哲学)(90分)

①責任と危機管理

事例(事故や暴力)紹介、
学生指導(危険防止教育)の重要性
(アンガーマネジメント?)

②コーチング哲学・信念

グッドコーチに向けた「7つの提言」を
もとにグループディスカッション

③フェアプレイ

フェアプレイ宣言(JSPO)をもとに
グループディスカッション
署名を勧める。
学生にも勧めてもらう。



2. 学業・アスリート教育の重要性(90分)

①単位制度の厳格化

授業時間数確保(補講、予復習)
欠席時の学修指導の必要性
入学前教育

②デュアルキャリア支援の必要性

JSC「スポーツキャリア総合ポータル」
をもとにグループディスカッション



③人間教育・スポーツマンシップ教育

大学や学連の事例をもとにグループ
ディスカッション

テーマ

【学業充実】学修機会確保B 指導者セミナー

添付資料

グッドコーチに向けた「7つの提言」(文部科学省コーチング推進コンソーシアム2015年)

スポーツに関わる全ての人々が、「7つの提言」を参考にし、新しい時代にふさわしい、正しいコーチングを実現することを期待します。

1 暴力やあらゆるハラスメントの根絶に全力を尽くしましょう。

暴力やハラスメントを行使するコーチングからは、グッドプレイヤーは決して生まれないことを深く自覚するとともに、コーチング技術やスポーツ医・科学に立脚したスポーツ指導を実践することを決意し、スポーツの現場における暴力やあらゆるハラスメントの根絶に全力を尽くすことが必要です。

2 自らの「人間力」を高めましょう。

コーチングが社会的活動であることを常に自覚し、自己をコントロールしながらプレイヤーの成長をサポートするため、グッドコーチに求められるリーダーシップ、コミュニケーションスキル、論理的思考力、規範意識、忍耐力、克己心等の「人間力」を高めることが必要です。

3 常に学び続けましょう。

自らの経験だけに基づいたコーチングから脱却し、国内外のスポーツを取り巻く環境に対応した効果的なコーチングを実践するため、最新の指導内容や指導法の習得に努め、競技横断的な知識・技能や、例えば、国際コーチング・エクセレンス評議会(ICCE)等におけるコーチングの国際的な情報を収集し、常に学び続けることが必要です。

4 プレーヤーのことを最優先に考えましょう。

プレイヤーの人格及びニーズや資質を尊重し、相互の信頼関係を築き、常に効果的なコミュニケーションにより、スポーツの価値や目的、トレーニング効果等についての共通認識の下、公平なコーチングを行うことが必要です。

5 自立したプレイヤーを育てましょう。

スポーツは、プレイヤーが年齢、性別、障害の有無に関わらず、その適性及び健康状態に応じて、安全に自主的かつ自律的に実践するものであることを自覚し、自ら考え、自ら工夫する、自立したプレイヤーとして育成することが必要です。

6 社会に開かれたコーチングに努めましょう。

コーチング環境を改善・充実するため、プレイヤーを取り巻くコーチ、家族、マネージャー、トレーナー、医師、教員等の様々な関係者(アントラージュ)と課題を共有し、社会に開かれたコーチングを行うことが必要です。

7 コーチの社会的信頼を高めましょう。

新しい時代にふさわしい、正しいコーチングを実践することを通して、スポーツそのものの価値やインテグリティ(高潔性)を高めるとともに、スポーツを通じて社会に貢献する人材を継続して育成・輩出することにより、コーチの社会的な信頼を高めることが必要です。

テーマ3

成績管理・対策、さらなる動機付け

早稲田大学 スポーツ科学学術院

友添 秀則 氏

テーマ

【学業充実】 成績管理・対策、さらなる動機付け

第4回作業部会(10/15)における報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① 学業基準の制度設計の詳細の検討。具体的には、各年次に求められる必要最低単位基準案の策定と次年度からどのように運用するかを討議。結果、次年度からは実証事業として大学・学連の協力を募り、実際に運用した場合の結果を基にして正式な基準案とフローを決める方針案に至る。
- ② 表彰制度について、表彰時期・内容・大卒の表彰方法を討議。結果、(i)競技成績のみでの表彰(①の基準を満たしている前提) (ii)競技成績に加えて、学業成績も加味した表彰の大きな2枠の基準案や時期、方法案を策定した

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 次年度行う実証事業の内容や方法。また、基準順守という義務に与える権利の整理。
- ② 表彰をする際の審査員や情報のフロー、具体的な表彰の内容を整理する必要がある。

他テーマへの申し送り事項

- ① 【全体】次年度から制度執行ではなく猶予期間を持たせる事への意見。
- ② 【事業・マーケ】SAIに求める業務機能との整合。
- ③ 【事業・マーケ】(大会レギュレーションの整備) 奨学金・表彰制度とスポンサーのあり方の検討

次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① 学業基準案及び次年度実証事業の概況ラフスケッチの報告。
- ② 表彰制度についての制度設計図のラフスケッチの報告。
- ③ 成績管理と表彰制度該当部分のアンケート結果速報。

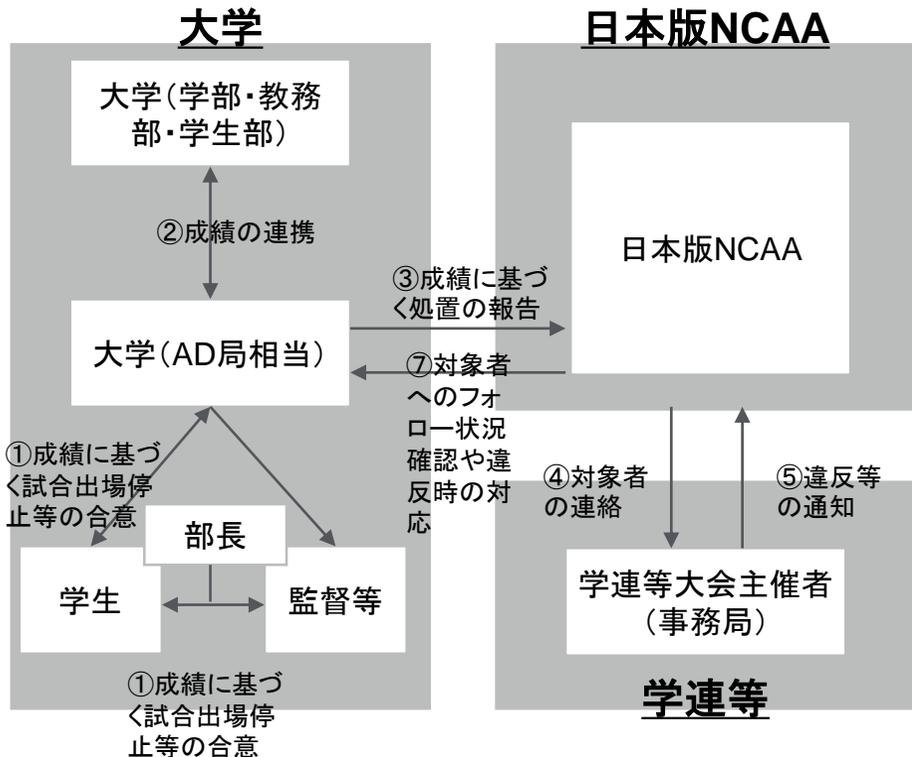
テーマ 【学業充実】 成績管理・対策、さらなる動機付け

添付資料

学業基準(成績管理・対策)

学業基準管理フロー案(相関図)

ステークホルダーの役割案



日本版NCAA	大会参加対象アスリートの情報管理、違反時の対応判断、違反行為有無の抜き打ち管理、成績不振者復帰判定の管理・仲裁
	各大会スケジュールの把握並びに成績管理との突合、試合不参加対象者に関する情報連携(大学・学連)、成績不振者への学業フォロー内容を確認(大学)
大学(学部・教務部・生活部や部長)	大学毎の成績管理及び内容をAD局へ通知
大学(AD局相当)	大会登録に間に合うように成績管理及び内容を地域ブロックへ通知、成績不振者へのフォロー内容の策定及び監督等との連携、学生への通知
学生・監督	大学や学連、日本版NCAAの決定に基づく制約の遵守
学連	対象者の管理、不正発覚時の扱いの策定(大会)、不正発覚時の通知(日本版NCAA)

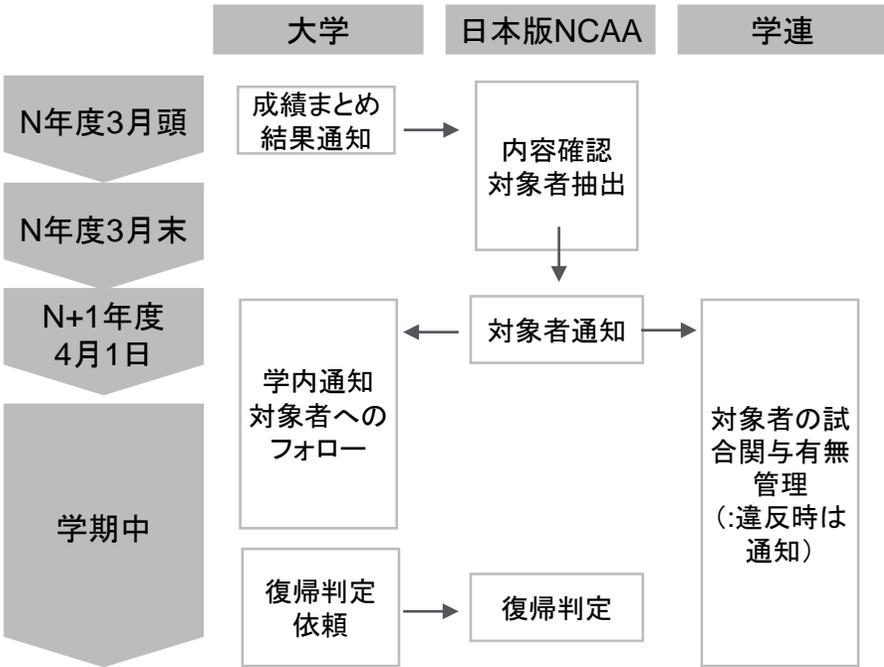
テーマ

【学業充実】 成績管理・対策、さらなる動機付け

添付資料

学業基準(成績管理・対策)

学業基準管理フロー案(年次表)



※年度初めに該当者を抽出し関係者へ通知するフローを検討中

成績基準案

	基準	勧告範囲	出場停止
2年開始時	25単位	~20単位	19単位以下
3年開始時	60単位	~50単位	49単位以下
4年開始時	90単位	~80単位	79単位以下

勧告範囲
試合出場とは可能。但しAD局は対象者にどのようなフォローをするかの計画とその結果報告を義務付ける

出場停止
対象者は対外試合への出場不可能。復帰のためには勧告同様計画と報告義務に加えて、改善されたと証明できる成績書の提示を義務付ける

※何らかの事情で特例措置が認められた場合(怪我や留学など)は5年次基準を適用することを検討

復帰の規程案

※基本的に上記義務を満たしており、日本版NCAA並びに加盟大学からの了承が得られた場合はどのタイミングでも復帰可能とする

テーマ

【学業充実】 成績管理・対策、さらなる動機付け

添付資料

学業基準(成績管理・対策)

制度執行のタイミング案

浮上している論点(全体で要整合)

- 次年度から制度を執行するのは、運用上困難であるため、次年度～2, 3年は「実証事業期間」と定めて、仮案で設定した基準で運用した場合、どの程度対象者が発生するのかまた、成績基準を管理するフローは機能するかの検証を行いたい
- 精緻な実証事業を行う上でも、協力いただける学連(どの大会で?いつまでに成績要件が無いと判断できないか?誰が管理する?)と大学(情報管理の観点・内部フローは機能するか?大学毎に定めている基準との整合はできているか?)を募る必要がある
- 大学が「部活」と認定しているすべてを基準の対象とするべきか
- それとも強化指定部活など限定すべきか
- 管理対象とする大会はどの範囲か
- 学修サポートについてはチューター派遣など日本版NCAAからの補助で対応などが可能かの検討

テーマ

【学業充実】 成績管理・対策、さらなる動機付け

添付資料

表彰制度(さらなる動機づけ)

表彰制度の方針

- 日本版NCAAの成績基準を満たし競技を行い、その上で「優れた競技成績」を納めているチームや個人について表彰する
- 加えて、その上で「優れた学業成績」を納めているチームや個人についても表彰する方針としたい



NCAAアスリート賞



NCAAスカラアスリート賞

表彰の対象とする大会等の相関図(案) NCAAアスリート賞

	表彰主体者	優勝等	ベスト8以上	
世界大会相当	日本版NCAA	最優秀賞	優秀賞	日本版NCAA本体が年に一度表彰を行う(*対象大会やチーム数等は要精査)
全国大会相当	日本版NCAA	最優秀賞	優秀賞	
地区大会相当	日本版NCAA 地区ブロック	優良賞	-	学連と連携し地区や大会ごとに表彰(*負担は日本版NCAA)

テーマ

【学業充実】 成績管理・対策、さらなる動機付け

添付資料

表彰制度(さらなる動機づけ)

表彰の対象とする大会等の相関図(案) NCAAスカラーアスリート賞

	表彰主体者	優勝等	ベスト8以上	各大学の成績上位者 (*GPA〇〇以上かつ所属学部等の成績が上位10%としてノミネート基準を設定)
世界大会相当	日本版NCAA	最優秀賞	優秀賞	
全国大会相当	日本版NCAA	優良賞	-	
地区大会相当	日本版NCAA 地区ブロック	優良賞	-	

×

表彰タイミング案

- 毎年3月上旬までに各大学の成績と大会の成績を総合して3月下旬には表彰する

論点

- 表彰対象者が現実的な数になるか、また対象大会をどの範囲までに設定するか
- 表彰タイミングを一律にすることは現実的か、また表彰の原資をどのように募るか
- 団体競技の扱いやベンチ内外等対象範囲の設定をどうするか

テーマ4 キャリア支援

大阪体育大学 体育学部 教授
藤本 淳也 氏

テーマ

【学業充実】 キャリア支援

第4回作業部会(10/15)における報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① キャリア支援に関して既存団体がまとめた資料の共有を行った。
- ② 「全国体育スポーツ系大学就職担当者連絡協議会(29大学)」のアンケート集計結果を共有した。
- ③ 「成果物(案)」にまとめる短期的目標、中・長期的目標の大枠について確認した。
- ④ 「成果物(案)」の中・長期的目標の原案について議論した。
- ⑤ 「成果物(案)」の中・長期的目標の議論結果をもとに、第4回作業部会で報告 & 意見聴取する資料の作成を行った。

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 学生所属が「体育・スポーツ系学部」と「その他の学部」では、区別して検討すべき。
- ② 学生アスリートと一般学生の比率など、状況が大学によって異なることを考慮しながら検討すべき。
- ③ 既に学生アスリートキャリア支援として機能している民間企業とのタイアップが必要。
- ④ 就活やインターンシップの活動への監督・コーチへの理解促進の仕組みの検討が必要。
- ⑤ AD、キャリア支援部、指導者・コーチ、学生アスリートを結び付ける仕組みづくり支援が必要。
- ⑥ 学業充実部会の全体構想の中でデュアルキャリア支援システムの検討が必要。

他テーマへの申し送り事項

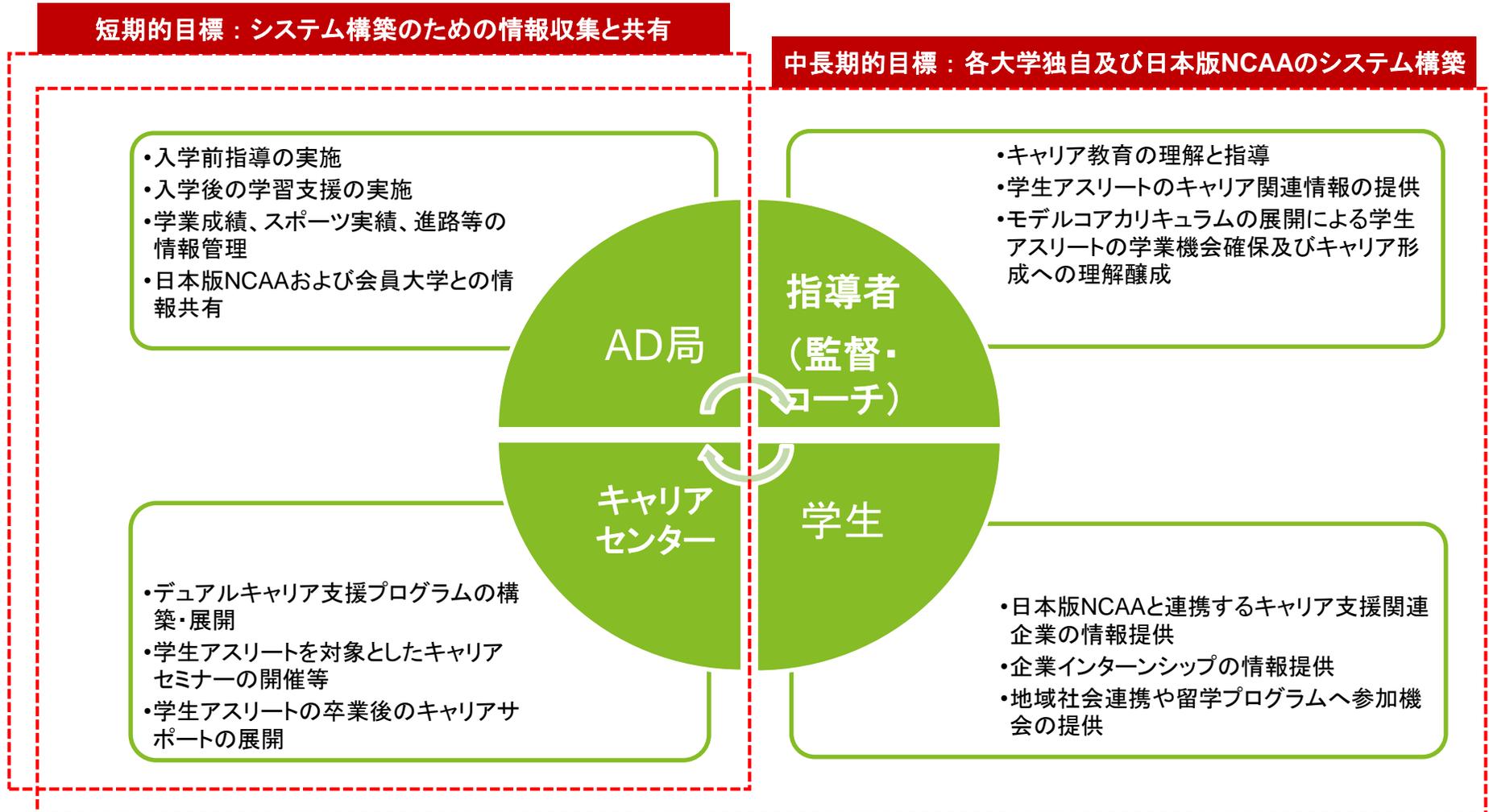
- ① 今後も、「入学前からの動機づけ」「学業基準の設定・さらなる動機付け」「指導者セミナー」の部会と情報共有が必要

次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① この時点で確認された課題
- ② 短期的、中・長期的キャリア支援プログラム案
- ③ 次回会議へ向けての議論のポイント

加盟大学に対して学生アスリートのキャリア支援を担うシステム構築を支援するとともに、学生アスリートに対して有用な情報提供のシステムを作り、運用する。

各大学におけるキャリア支援のステークホルダーとその役割の整理



*大阪体育大学提供資料を基に作成

学業④「キャリア支援」テーマでは短・中・長期的には以下のような目的をもって学生アスリートを支援する環境整備を行います

短・中・長期目標

短期目標

中期目標

長期目標

2018年(現在)

2022年
(設立後3年後～)

2024年
(設立後5年後～)

<情報収集・共有、醸成活動の展開>

加盟大学におけるスポーツキャリア形成およびデュアルキャリア支援の重要性とシステム整備の議論促進

- ガイドライン策定検討へ向けてのセミナー開催
- 学業充実の他テーマとの関連を整理し、ガイドラインをまとめる

日本版NCAAに学生アスリートを支援する部署(AD局やキャリア支援部)への情報提供・共有・相談機能(窓口)の設置

加盟大学における学生アスリートの「支援活動」「支援組織」「支援システム」に関する情報収集と共有の展開

2022年以降の取り組みへ向けての情報収集・分析、検討、準備の実施

<各大学におけるスポーツキャリア形成およびデュアルキャリア支援のシステム構築、及び、日本版NCAAにおけるキャリア支援システムの構築>

加盟大学に対して、以下の事業を実施する。

- 情報収集・提供
 - 加盟大学の状況
 - 監督・コーチの理解・支援の醸成プログラム
 - 学生アスリートに対する機会提供(就職支援企業の取り組み、インターンシップ、CLASS・JAPAN、トビタテ、ほか)
- セミナー等の開催
 - 関連セミナーの企画
 - 日本版NCAAとJSCが連携して「グッドコーチ育成」事業の展開
 - 加盟大学が学内で実施するセミナーへの講師紹介
- 学生アスリートを対象とした就職支援プログラムの情報提供

ガイドラインを策定し、加盟大学に対して以下の事業実施を求める。

- AD、キャリアセンター、指導者、学生アスリートとの関係・連携の構築・強化(大学独自)
- 指導者・コーチを対象としたプログラムの実施
- 学生アスリートのスポーツキャリア形成の事業展開
- 入学前指導そして入学後の学習支援のプログラムと連携したデュアルキャリア支援事業の展開

【短期的(加盟大学他)】加盟大学を対象とした情報収集および情報提供を通じて、各大学におけるキャリア支援システム構築をサポートしていく必要があります。

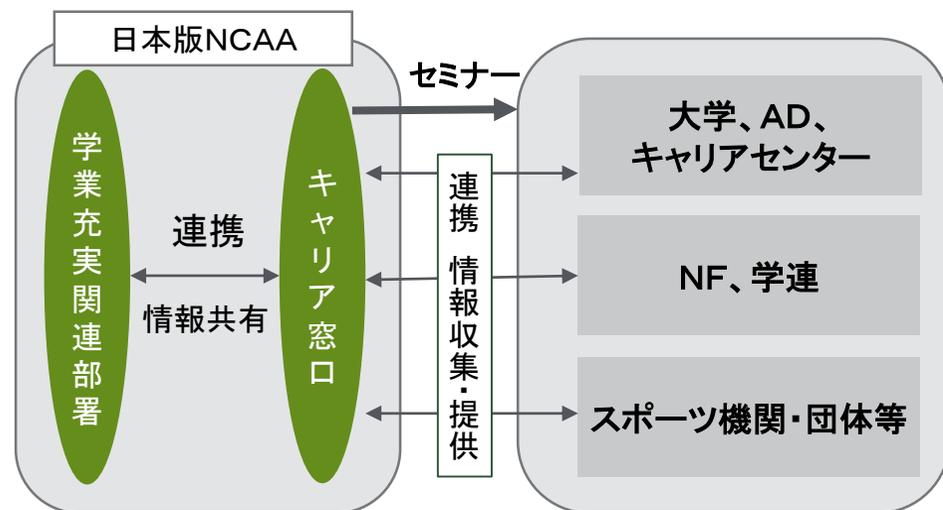
現状の課題

大学によって、学生アスリート比率、スポーツ推薦入学者数、ADの有無、キャリア支援部局の有無など状況が異なることから、下記の課題が想定される

- 学生アスリートのキャリア支援に関する情報不足
- 「学業充実」とデュアルキャリア支援に対する意識と取り組みの格差
- アスリートキャリア教育への意識と取り組みの格差
- 大学での学生アスリートのキャリア支援の在り方と具体策の検討

大学・関連団体への施策(案)

窓口設置による情報収集と提供システム構築



課題解決のねらい

- 会員(大学・関連団体)におけるキャリア支援に関する情報の収集と提供
- 学業充実、デュアルキャリア支援、アスリートキャリア教育に関するセミナー開催による意識醸成
- 日本版NCAAのガイドライン(大学対象)の検討

マイルストーン

- 1~2年間は会員(大学、関連団体)の情報収集とその提供に努め、各大学がそれぞれの状況に応じたキャリア支援システムを検討する材料提供を目指す。
- 計画的にセミナーを開催し、キャリア支援システムの重要性と必要性の情勢を行うとともに、2022年から施行するガイドラインを検討し、決定する。

ガイドライン

具体的には、以下のような事業実施のガイドラインを想定している。

- 指導者向け講習会の実施すること
- 大学アスリートのキャリア支援部署又は担当者の設置すること
- 学業充実、デュアルキャリア支援、スポーツキャリア教育を考慮した学生アスリートのサポートシステム(部署間連携など)を構築すること

加盟大学に対する
ガイドラインの検討

【中長期(指導者)】競技外の指導に対する意識・スキル向上を行うことが必要であると考えます

現状の課題

監督やコーチは大学ではなく部のOBOGの要請等から就任しているケースも存在し、その場合下記の課題が想定される

- キャリア検討の機会を与えない
- 学業への理解不足・学修機会を奪ってしまうこと
- 競技偏重の指導になり、人間形成の為の指導が疎かになる

課題解決のねらい

- 指導者のキャリア形成・学業充実の理解を醸成することで学生アスリートのキャリア検討・学業の機会確保
- 指導者の競技以外の指導力の向上による相乗効果(学生アスリートとの関係性改善、チーム力向上など)

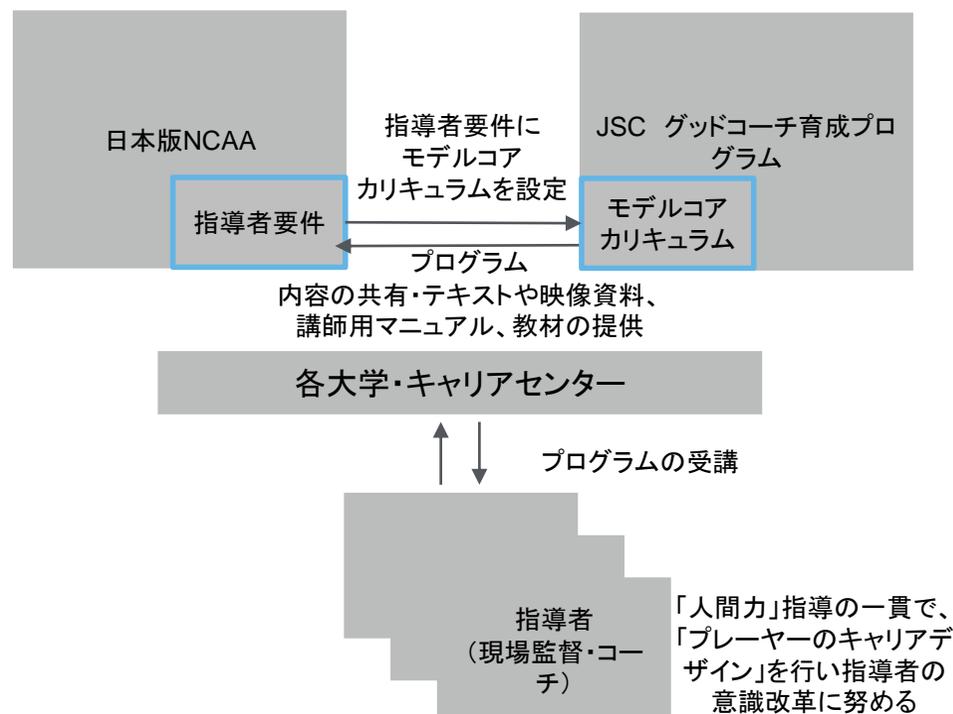
マイルストーン

- 初年度はJSCとどのような連携が現実的か、またどのように連携すると効果的かを事務局中心に対話し、企画書作成を目指す
- 2年目以降、日本版NCAAの実態に合わせてJSC協働プログラムを実証事業として開始する
- 3年目以降、日本版NCAAのメニューとして本格化指導

指導者への施策(案)

グッドコーチ育成プログラムとの連携

- 現場監督・コーチを対象に既に実施されている公益財団法人日本体育協会のコーチ育成のための「モデルコア・カリキュラム」事業との連携を図り両団体の目的実現に向け協力する



- 日本版NCAA加盟大学の現場で指導をする監督・コーチに対しデュアルキャリア、将来に向けてのキャリア形成へと導くことの重要性を伝える

【中長期(学生)】学生に社会への貢献について考えるきっかけとキャリアデザインセミナーを提供します

現状の課題

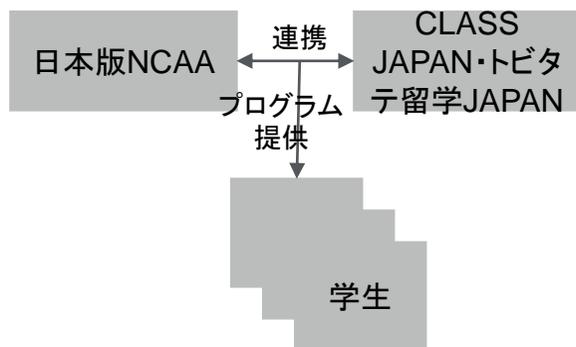
- 学生アスリートは競技偏重の活動が多く、キャリアについて考えるきっかけが少ないのではないか
- 競技偏重の生活を送っており、地域社会と連携する機会が少ないのではないか

課題解決のねらい

- 学生アスリートにとってキャリアについて考えるきっかけ、具体的に検討する方法を伝授する
- 学生アスリートにとって、日本版NCAAならではの貴重な体験の提供
- 既に事業として学生アスリート支援を行っている民間企業の力を日本版NCAAで最大限生かすこと

学生への施策(案1)

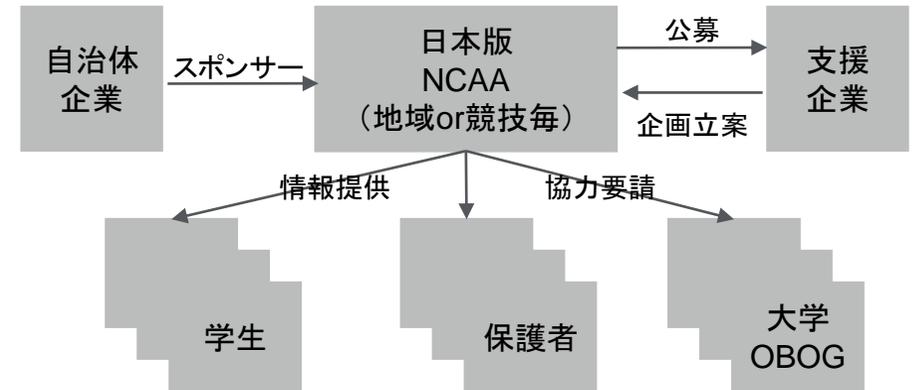
特別プログラム (CLASS JAPAN・トビタテ留学JAPANとの連携)



1. CLASS JAPANとの連携による「不登校」学生へのスポーツを通じた成功体験提供(*学生アスリートは指導者側)
2. トビ立てJAPAN連携による、優秀生徒の「留学」支援

学生への施策(案2)

公募型キャリアデザインセミナー



1. 趣旨を説明し、社会的な意義や、日本版NCAAの学生アスリートにリーチできるメリットを提示し自治体や採用企業にスポンサー営業をする
2. 日本版NCAAがキャリアデザインセミナーを公募し応募を受け付ける
3. 支援企業が企画立案のうえ応募をする
4. 日本版NCAAがキャリアデザインセミナーを主催し、学生に直接キャリア支援を行う

下記のような官・民の事例を参考することができます

官・民の事例まとめ

目標設定支援

原田式メソッド(株式会社原田教育県境所)

例:

■大谷翔平が花巻東高校1年時に立てた目標達成表

項目	アライク100	F50 90kg	100m 12秒	1000m 3分	2000m 7分	5000m 18分	10000m 37分	15000m 55分	20000m 1時間	30000m 1時間40分	40000m 2時間	50000m 2時間40分	60000m 3時間	70000m 3時間40分	80000m 4時間	90000m 4時間40分	100000m 5時間
達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
目標	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成

(注)FSQ、RSQは箱トランポリン(出典)アスリートキャリア

学生アスリート就職支援

学生アスリート向け中小・ベンチャー企業就職サイト例:
「アスリートエージェント」(株式会社アーシャルデザイン)

例:



学生アスリート就職支援

体育会学生向け就職サイト例:
①「アスプラ」(株式会社アスリートプランニング)



②「リクナビ就職エージェント 体育会学生向け」(株式会社リクルートキャリア)



③「スポナビ」(株式会社スポーツフィールド)



留学促進キャンペーン

「トビタテ！留学JAPAN」(文部科学省)



不登校生徒支援制度

「CLASS JAPAN」(一般財団法人クラスジャパン教育機構)



テーマ5 事故情報の集約化

事務局

テーマ 【安全安心・医科学】 事故情報の集約化

第4回作業部会(10/15)における報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

① 事故情報の集約

基本的に保険のデータを活用することとし、保険から得られる情報を確認した。学連が事故情報を把握しているかを調査中。

② 保険

学連の保険加入状況を調査中。加入が勧められる保険を大学、学連、チーム(学生)、指導者別に整理し、加入促進策を検討する。新たな保険については、日本版NCAA設立後に検討する。

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

① 事故情報の集約： 収集した事故情報を集計・分析して大学、学連にフィードバックする必要がある。個別の事故予防のためには大学、競技を越えた情報を収集する調査研究が必要であり、日本版NCAAが調査研究をコーディネートする必要がある。

他テーマへの申し送り事項

① 安全安心のガイドラインに大学、学連が事故情報を把握すべきこと、適切な保険に加入すべきことを盛り込む

次回の作業部会における報告事項(予定)

① 事故情報の集約： 学連の事故情報の把握状況

② 保険： 学連の保険加入状況。加入が勧められる大学、学連、チーム(学生)、指導者別の保険

テーマ6 共通ルールの設定

全日本学生柔道連盟 理事
三宅 仁 氏

テーマ

【安全安心・医科学】 共通ルールの設定

第4回作業部会(10/15)における報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

1. 安全・安心に関するガイドライン

- ①担当部門の調査報告及び意見交換(頭部・頸部損傷、心疾患、熱中症、各競技団体ガイドライン調査)
- ②NCAAの安全安心ガイドラインを参考にその項目についての内容確認と必要性の検討。担当項目の明確化。
- ③デスクトップ調査による各競技団体におけるガイドラインの調査とその内容確認。
- ④頭部・頸部損傷、心疾患・熱中症における既存のガイドブックの活用。

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

1. NCAAの安全安心ガイドラインにおける「大学の責任」についての項目の必要性について。
2. 安全安心ガイドラインの成果物の作成方法について。

他テーマへの申し送り事項

- ① <事故データ集約> 事故データ収集方法に関する方針の確認(テーマ5)

次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① 安全・安心に関するガイドライン
素案作成の進捗状況及び記載予定内容の報告。

テーマ

【安全安心・医科学】 共通ルールの設定

添付資料

段階的スポーツ復帰 (GRTS) 計画

ステージ	目的	運動	到達目標
1	症状悪化のない活動	症状を誘発させない日常活動	段階的復帰への再導入
2	軽い有酸素運動	歩行や自転車運動 ゆっくり～中等度の速度 レジスタントトレーニングは禁止	心拍数増加
3	競技に関連した運動	ランニング練習 頭部への衝撃がないこと	運動負荷
4	接触プレーのない運動	より強度のトレーニング 例えばパス、筋トレの開始	運動、協調 認知負荷
5	接触プレーのある運動	医学的評価、その後通常練習 コーチングスタッフによる機能評価	自信の回復
6	運動復帰	通常の競技活動	

出典：FIS脳振盪ガイドライン2017

テーマ

【安全安心・医科学】 共通ルールの設定

添付資料

5. スポーツにおける熱中症の実態

熱中症とは、高温環境によって、体内の水分や塩分（ナトリウムなど）のバランスが崩れ、体内の体温調整機能が破綻するなどして発症する障害をいう。スポーツ中では筋肉運動による体内での熱の発生がおこるため、過度の運動強度の高いスポーツでは屋内・屋外問わず熱中症の発生要因になる。

したがって湿度の高い屋外環境でのマラソン、サッカー、ラグビー、アメリカンフットボールなどのスポーツ、室内での高温多湿環境（暑熱環境）での運動（柔道・剣道・レスリング）などでも発生する。

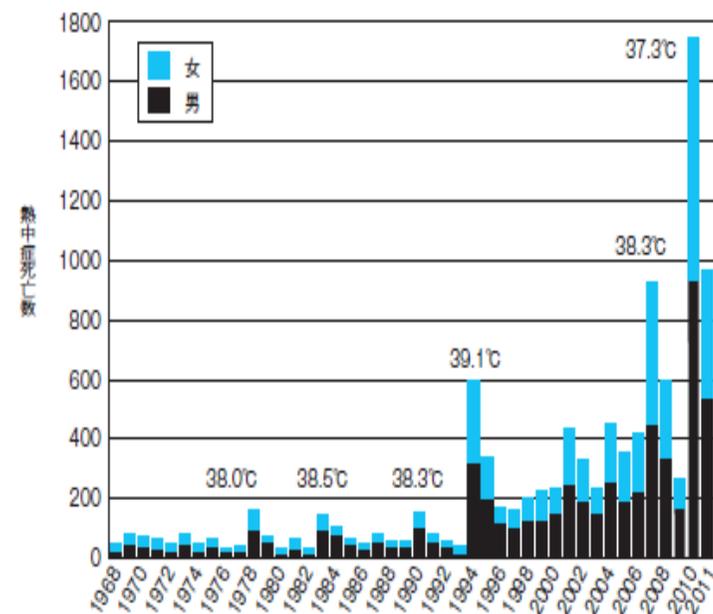
図 年度ごとの熱中症発生頻度

1) 熱中症の重症度分類と症状と処置

症状はめまい、立ちくらみ、大量の発汗、筋肉痛、こむら返り、頭痛、嘔吐、倦怠感、集中力の低下などの症状が生じる。重症になればぐったりして、意識障害、けいれん、手足のけいれんや運動障害、さらには高体温が続くと肝臓や腎臓、血液凝固生涯などの臓器障害が生じ、場合によっては死に至る。ただし、熱中症は予防を知り、高体温を適切な冷却や補水などのファーストエイドによって早期に防ぐことができれば、救命することが可能である。

熱中症は、病気の重症度に応じてⅠ度、Ⅱ度、Ⅲ度に分類する（図）。かつては症状や病状をもとに、「熱失神」、「熱けいれん」、「熱疲労」、「熱射病」などと分けて呼んでいたが、それぞれの区別が必ずしも明らかでなかったことから、これらの分類は現在では使用されなくなっている。

図 熱中症の重症度分類と症状と処置



テーマ 【安全安心・医科学】 共通ルールの設定

添付資料

2. スポーツ現場における心停止への対応手順

1) 心停止の確認と胸骨圧迫とAEDの使用

運動中に突然倒れた際には、転んだ、ぶつかった、気絶したなど心停止を疑いにくい場合が多い。突然に倒れた場合で反応がなければ、まず心停止を疑う。とくに判断に迷った場合もただちにCPRを開始することが重要である。目の前で倒れた人を見たらまず心停止を疑い、ただちに胸骨圧迫を開始する。

- ・反応の確認（肩や顔をたたいて確認）
- ・呼吸の確認（あえぎ呼吸に注意：あえぎ呼吸とは、胸や腹部が十分挙上していない呼吸；6秒程度で観察）。
- ・呼吸の確認



テーマ

【安全安心・医科学】 共通ルールの設定

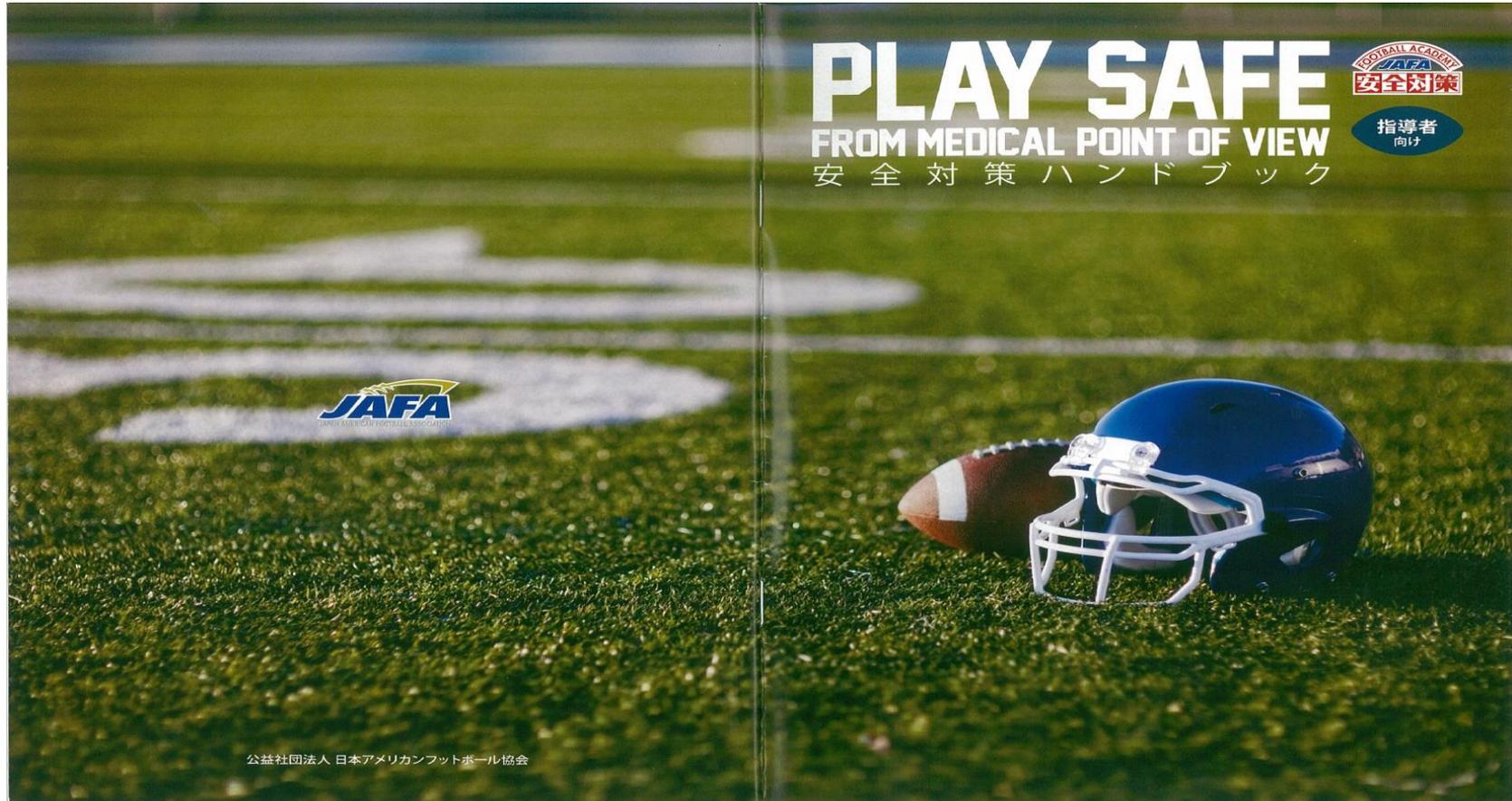
添付資料

43	ボクシング	日本連盟のみ		なし	学連組織の整備orNFによる直接指導・啓発
44	キックボクシング	全日本学生キックボクシング連盟	http://gakuseikick.net/	なし	
45	フェンシング	日本連盟のみ		なし	学連組織の整備orNFによる直接指導・啓発
46	レスリング	全日本学生レスリング連盟	不明	なし	
47	パワーリフティング	学生ボディビル連盟・学生パワーリフティング連盟	不明	なし	
48	ボディビル		不明	なし	
49	チアリーディング	日本連盟のみ		なし	学連組織の整備orNFによる直接指導・啓発
50	バトントワリング	なし		なし	学連組織の整備orNFによる直接指導・啓発
51	新体操・器械体操	全日本学生体操連盟 All Japan Gymnastics Federation of Students	http://gymgakurennoor.jp/	なし	
52	競技ダンス	全日本学生競技ダンス連盟	http://www.univ-dance.gr.jp/index-j.html	なし	
53	エアロビック	日本協会のみ		なし	学連組織の整備orNFによる直接指導・啓発
54	セパタクロー	日本セパタクロー学生連盟	http://sepaktakraw-gakuserenme.jimdo.com/	なし	
55	カバディ	日本協会のみ、学生はなし		なし	学連組織の整備orNFによる直接指導・啓発
56	パラグライダー	日本学生フライヤー連盟 Japan Student Flyer Federation	http://jsff.org/	なし	指導者研修・大会運営を通じて普及か
57	サーフィン	一般社団法人日本学生サーフィン連盟 NSSA(Nippon Student Surfing Association)	http://nssa-surf.org/index.html	なし	
58	自転車	日本学生自転車競技連盟 Japan Intercollegiate Cycling Federation (J.I.C.F.)	http://www.remus.dti.ne.jp/~jicf/	なし	
59	ボードセーリング	日本学生ボードセーリング連盟(JUBF)	http://www.jubf.org/index.html	なし	
60	武術太極拳	日本学生武術太極拳連盟	http://taikyokugakuren.blog.fc2.com/blog-category-6.html	なし	
61	クリケット	関東学生クリケット連盟(略称:学生連盟) 全国はなし	http://www.gakuren-cricket.com/	なし	
62	オリエンテーリング	日本学生オリエンテーリング連盟 the inter-University Orienteering Federation in Japan	http://www.orientteering.com/~uof/index.php?blogid=1&catid=7	なし	
63	ダブルダッチ	日本学生ダブルダッチ連盟(JSDDL)	http://www.double-dutch-delight.com/index.html	なし	
64	ライフル射撃	日本学生ライフル射撃連盟 SRAJ(The Students Rifle shooting Association of Japan)	http://www.studentsrifle.net/	なし	指導者研修・大会運営を通じて普及か
65	グライダー	公益財団法人日本学生航空連盟	http://www.jsal.or.jp/	なし	指導者研修・大会運営を通じて普及か
66	スノーボード	全日本学生スノーボード協会 SSBA(Student Snowboarding Association)	http://ssba.biz/#1	なし	

テーマ

【安全安心・医科学】 共通ルールの設定

添付資料



テーマ7

ガバナンスの体制構築、ハラスメント
や暴力等に関する相談・対応体制
の構築

日本安全教育学会 理事

戸田 芳雄 氏

テーマ

【安全安心・医科学】ガバナンス体制の構築、ハラスメントや暴力等に関する相談・対応体制の構築

第4回作業部会(10/15)における報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ①スポーツ機関、大学の相談窓口の対象者、対象事案、実績等に関するヒアリング調査結果等を元に、日本版NCAAにおける相談窓口の基本となるコンセプトについて検討した。
- ②大学、NF、学連等のコンプライアンスに関するガイドライン・規程等のヒアリング調査等を行ない、ガイドライン作成の基本となる指針のコンセプトについて検討した。

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 当事者以外の第三者(日本版NCAA)が相談窓口を設置することにより、学生が相談しやすくなると考えられ、問題を早期に発見し、適時に大学等への情報提供が可能となるため、問題解決が速やかになるのではないかと。
- ② 問題を具体的に解決するのは各大学・学連等であるため、日本版NCAAとの具体的な連携方法を検討する必要がある。
- ③ 問題解決にあたっては、専門家の知識が必要であるため、法律事務所等に委託する必要がある。それに伴い発生する経費を具体的に検討する必要がある。

他テーマへの申し送り事項

次回の作業部会における報告事項(予定)

- ①日本版NCAAの相談窓口に関する規程案や概算した経費の金額。
 - ②コンプライアンス等に関するガイドラインの素案。
- * ①②共に、テーマ7チームの検討を経て第6回作業部会(11/5)に提案予定。

テーマ

【安全安心・医科学】ガバナンス体制の構築、ハラスメントや暴力等に関する相談・対応体制の構築

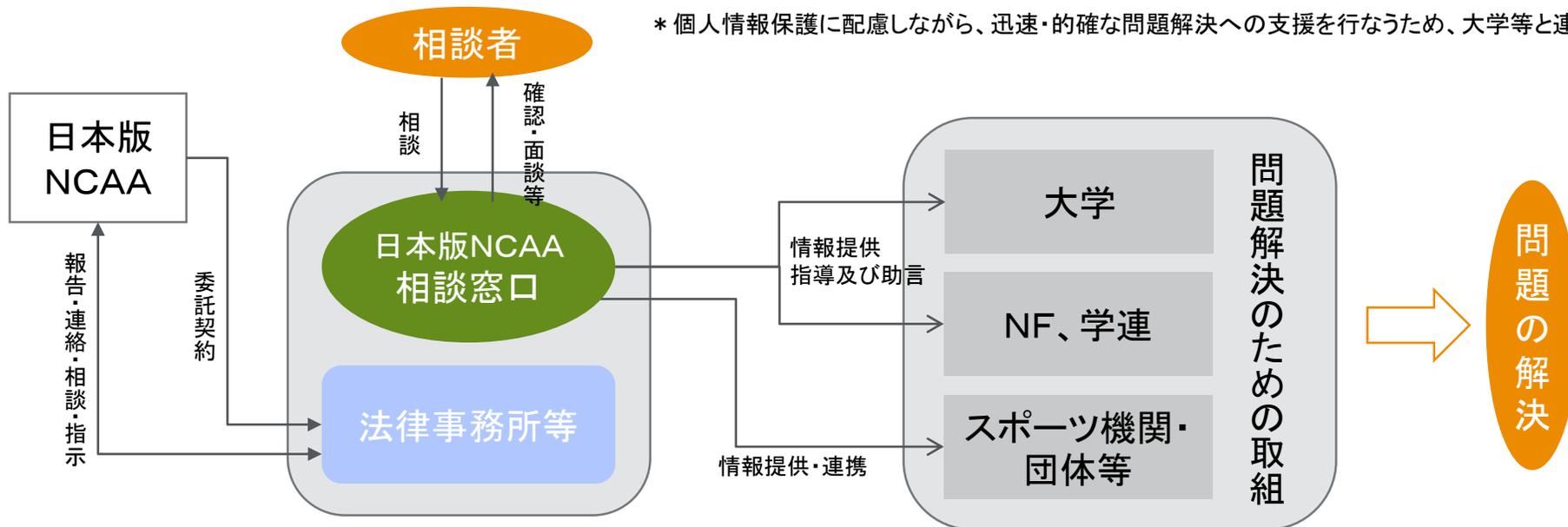
添付資料

NCAAにおける相談窓口の基本コンセプト

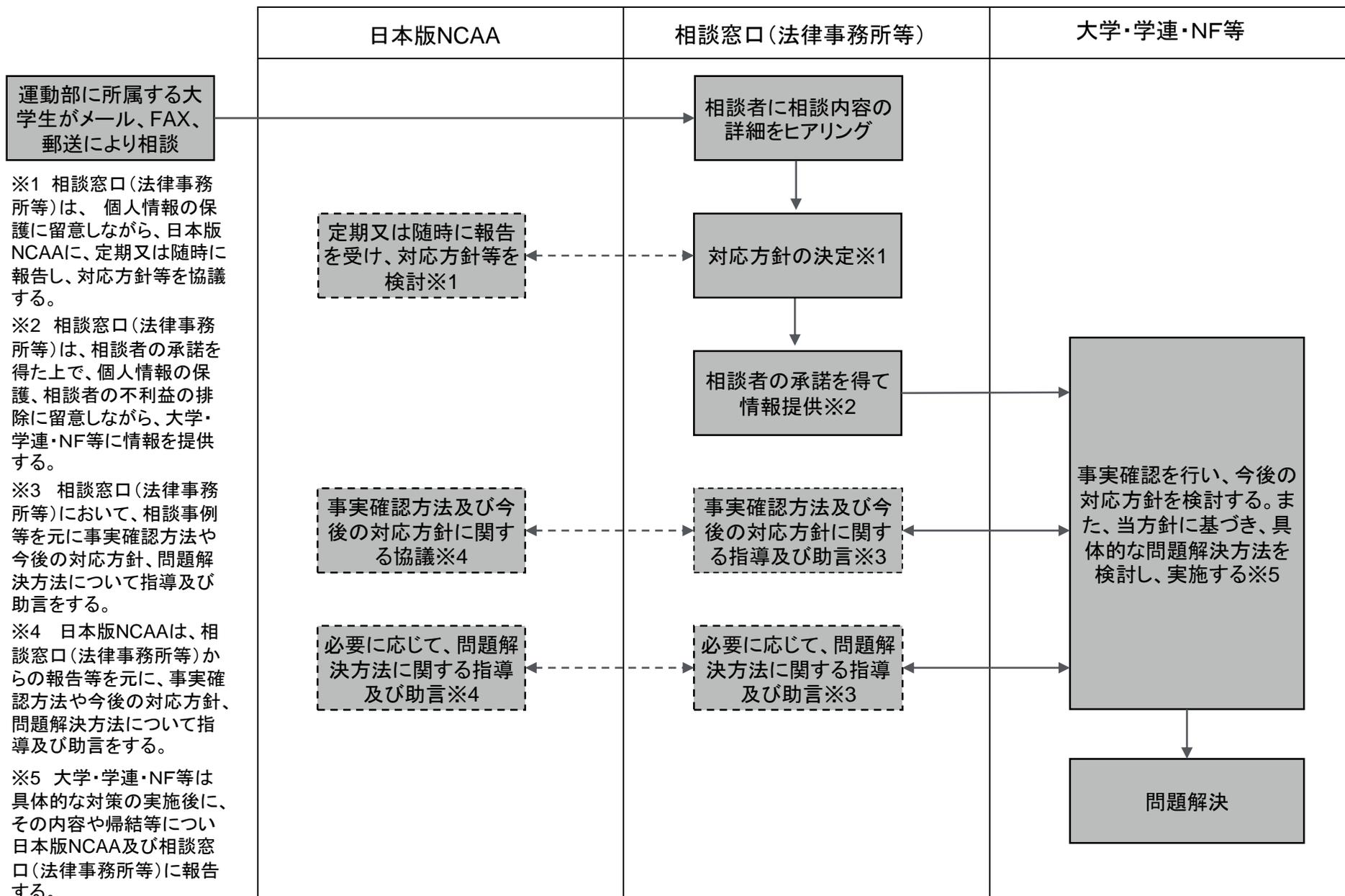
対象者	大学の運動部に所属する学生
対象事案	暴力・体罰、ハラスメント、いじめ、不適切な会計等
受付方法	メール、FAX、郵送(フォーマットが必要、迅速・的確な処理のため匿名は対象外)
相談窓口運営	法律的な判断・対応が求められるため、法律事務所等に委託
相談件数	月10件、年120件を想定(他の団体等の窓口業務実績から試算)

NCAAにおける相談窓口のフロー(イメージ)

* 個人情報保護に配慮しながら、迅速・的確な問題解決への支援を行なうため、大学等と連携



相談窓口フローチャート図



※1 相談窓口(法律事務所等)は、個人情報の保護に留意しながら、日本版NCAAに、定期又は随時に報告し、対応方針等を協議する。

※2 相談窓口(法律事務所等)は、相談者の承諾を得た上で、個人情報の保護、相談者の不利益の排除に留意しながら、大学・学連・NF等に情報を提供する。

※3 相談窓口(法律事務所等)において、相談事例等を元に事実確認方法や今後の対応方針、問題解決方法について指導及び助言をする。

※4 日本版NCAAは、相談窓口(法律事務所等)からの報告等を元に、事実確認方法や今後の対応方針、問題解決方法について指導及び助言をする。

※5 大学・学連・NF等は具体的な対策の実施後に、その内容や帰結等について日本版NCAA及び相談窓口(法律事務所等)に報告する。

テーマ8

指導者研修

筑波大学 アスレチックデパートメント
スポーツ・アドミニストレーター

佐藤 壮二郎 氏

テーマ

【安全安心・医科学】 指導者研修

第4回作業部会(10/15)における報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① NCAAに加盟するのは「大学」であり「部」ではない。
→研修・講習は「加盟大学のスポーツの窓口となるSA(およびそれに準じる方)」が受け、それを学内および学内の指導者に展開していく形とする。
- ② 現在は指導者の意識向上を行う根幹である、大学のガバナンスがあまりにもバラバラである。
→指導における問題の根幹は大学が十分に指導者および部の状況を把握しておらず、マネジメントが連携できていないことによって多くの問題が起きている。よって、まず初期は「指導者の意識向上」という目的に対し、「チェックリストで大学のガバナンス、コンプライアンス、そして安全対策に対する課題と不足を知り」→「その課題に対して各大学が行っている取り組みや実践例を学び合う」場として研修会を展開する。→各大学に持ち帰りガバナンスや指導に対する自浄作用と意識向上を高めていく。

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 大学の意志とガバナンスが無ければならない＝テーマ⑫との連携が重要

他テーマへの申し送り事項

- ① チェックリストや発表で加盟大学の優良な取り組みが見えていく＝テーマ⑨の表彰との連携へ(表彰がモチベーションとなり、健全化に向けたより素晴らしい活動が生まれ、またそれを研修会で他大学が学び合う好循環をつくる。)

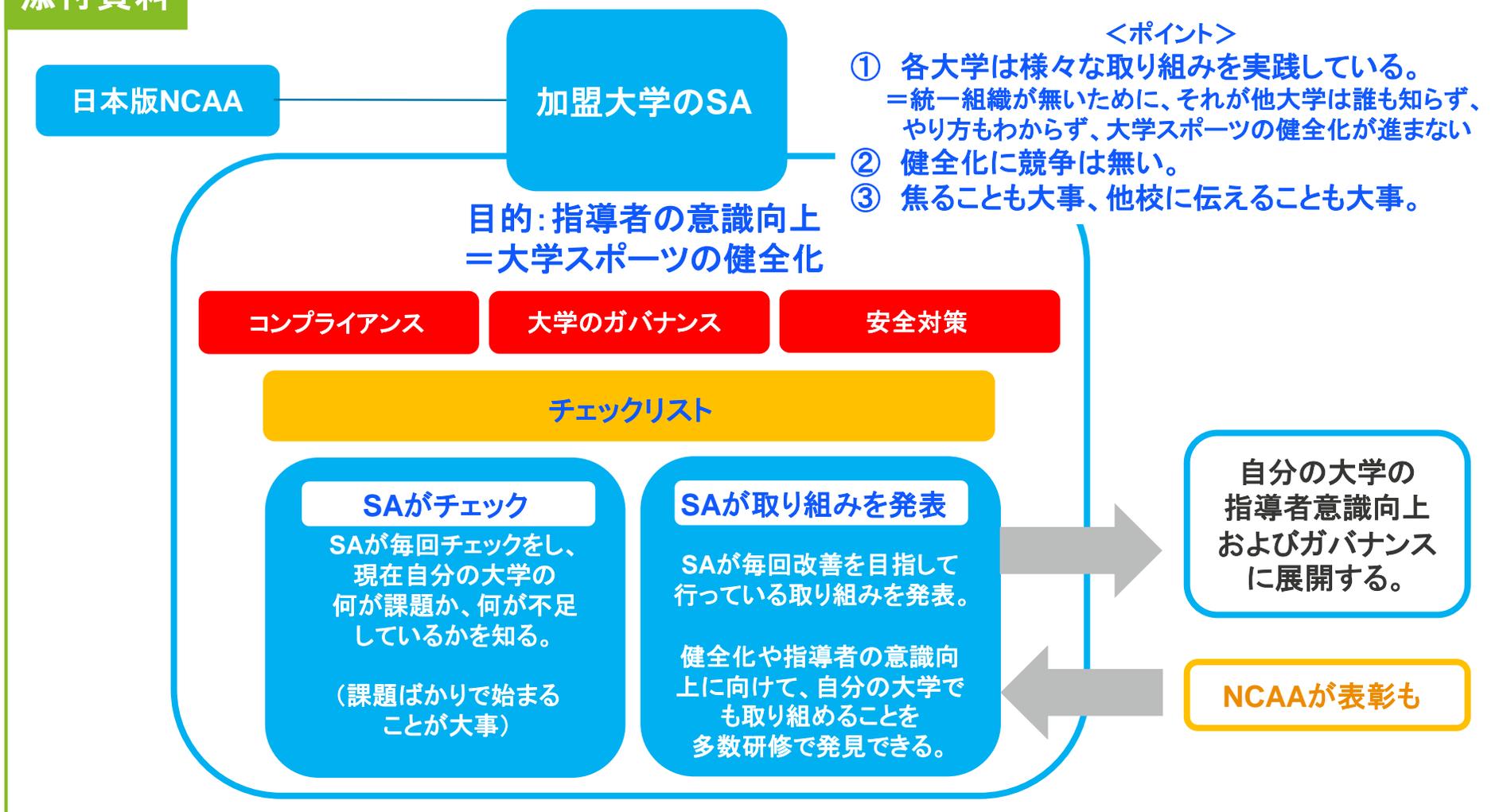
次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① 現在本テーマのグループで筑波大学の「ガバナンス」「コンプライアンス」「安全対策」チェックリストを共有し、これを土台に項目を洗い出している。
- ② 全ての加盟大学のSAが課題や取り組みを共有できるよう、全7会場等で開催、動画等で共有し、年1回SAの総会型の研修会も開くことを協議開始した。

テーマ

【安全安心・医科学】 指導者研修

添付資料



テーマ9

大会レギュレーションの整備

スポーツ庁 参与

池田 純

テーマ

【事業・マーケティング】 大会レギュレーションの整備

第4回作業部会(10/15)における報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① **表彰制度**に関して、各テーマからの協力もいただきながら、具体的な表彰項目案の検討を行った
- ② **競技横断的大学対抗戦**(既存の大会を前提としたポイント制)に関して、具体的なレギュレーションの検討を行った

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 表彰制度の実効性を担保するためには、学生・大学・競技団体等にとってのインセンティブをあわせて検討していく必要がある。そのためにはスポンサーの獲得もあわせて考えていく必要がある
- ② 競技横断的大学対抗戦がより学生他関係者から認知、注目され、盛り上がるようになるための仕掛けを整備していく必要がある

他テーマへの申し送り事項

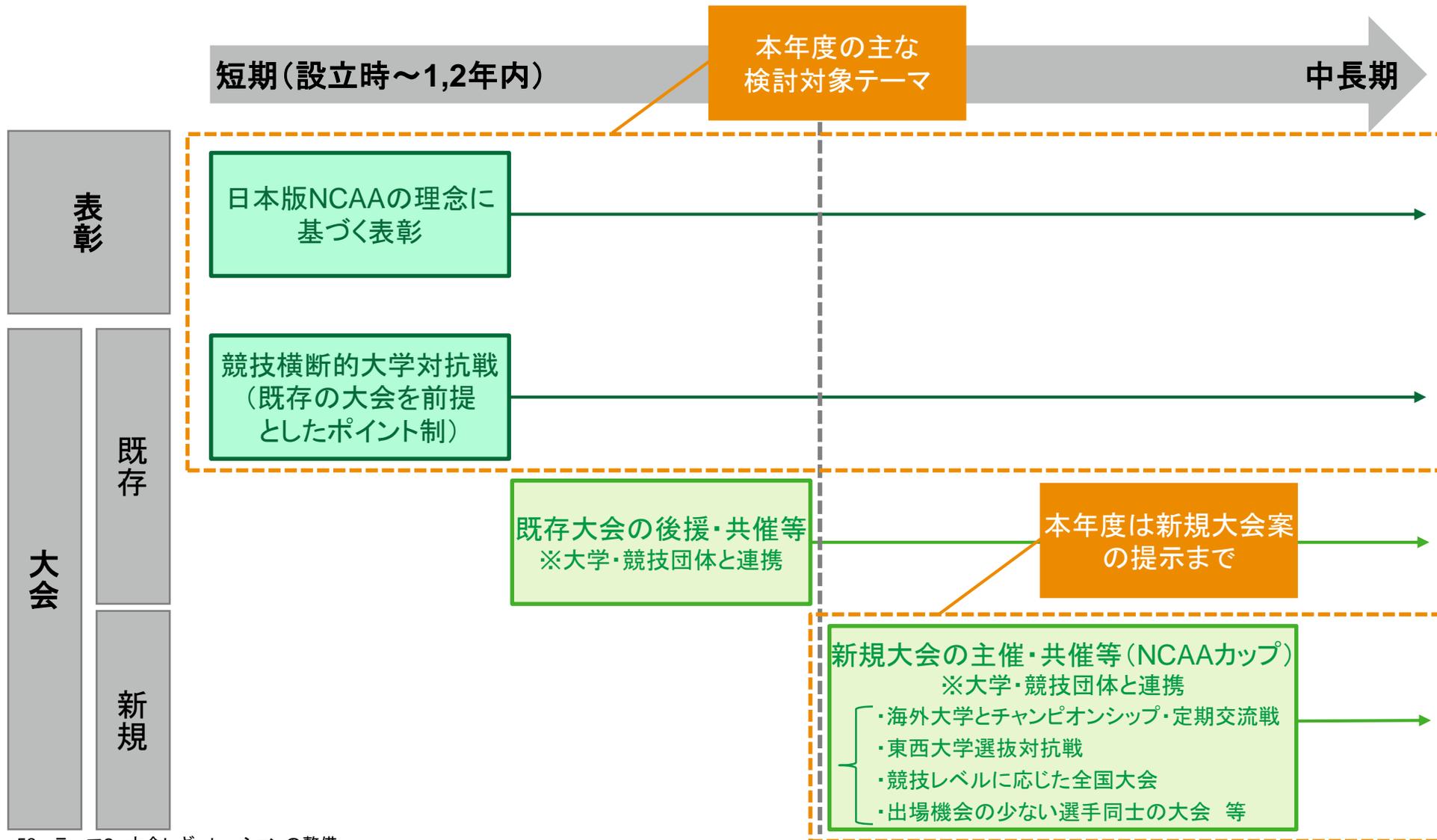
- 表彰制度に関して、テーマ3(成績管理・対策、さらなる動機付け)で検討している学業関連の表彰制度案との連携
- 表彰のインセンティブに関して、テーマ14(スポンサー)との連携

次回の作業部会における報告事項(予定)

- 次回は、第6回作業部会(11/5)にて報告予定
- 表彰制度、競技横断的大学対抗戦(既存の大会を前提としたポイント制)に関して、第3回設立準備委員会で付議する素案の提示

1. 日本版NCAAにおける大会・表彰制度整備の進め方

本年度においては、短期的な取組みとして、主に、日本版NCAAの理念に基づく表彰制度と既存の大会を前提とした競技横断的の大学対抗戦のレギュレーション整備を進めていきます。



2-(1) 表彰制度案－表彰制度の概要(案) (ver1.2)

表彰の 目的

- 表彰制度・表彰式を通じて、日本版NCAA(仮称)の理念の実現を後押しする
 - ✓ 学生スポーツにおける学生アスリート・大学・競技団体等各関係者のあるべき姿・目指すべき姿を示す
 - ✓ 加盟大学のブランディング(認知度向上、イメージ向上)に寄与する
 - ✓ 加盟競技団体の競技の認知度向上・普及に寄与する
 - ✓ (賞を通じて大学スポーツの環境整備に寄与する)

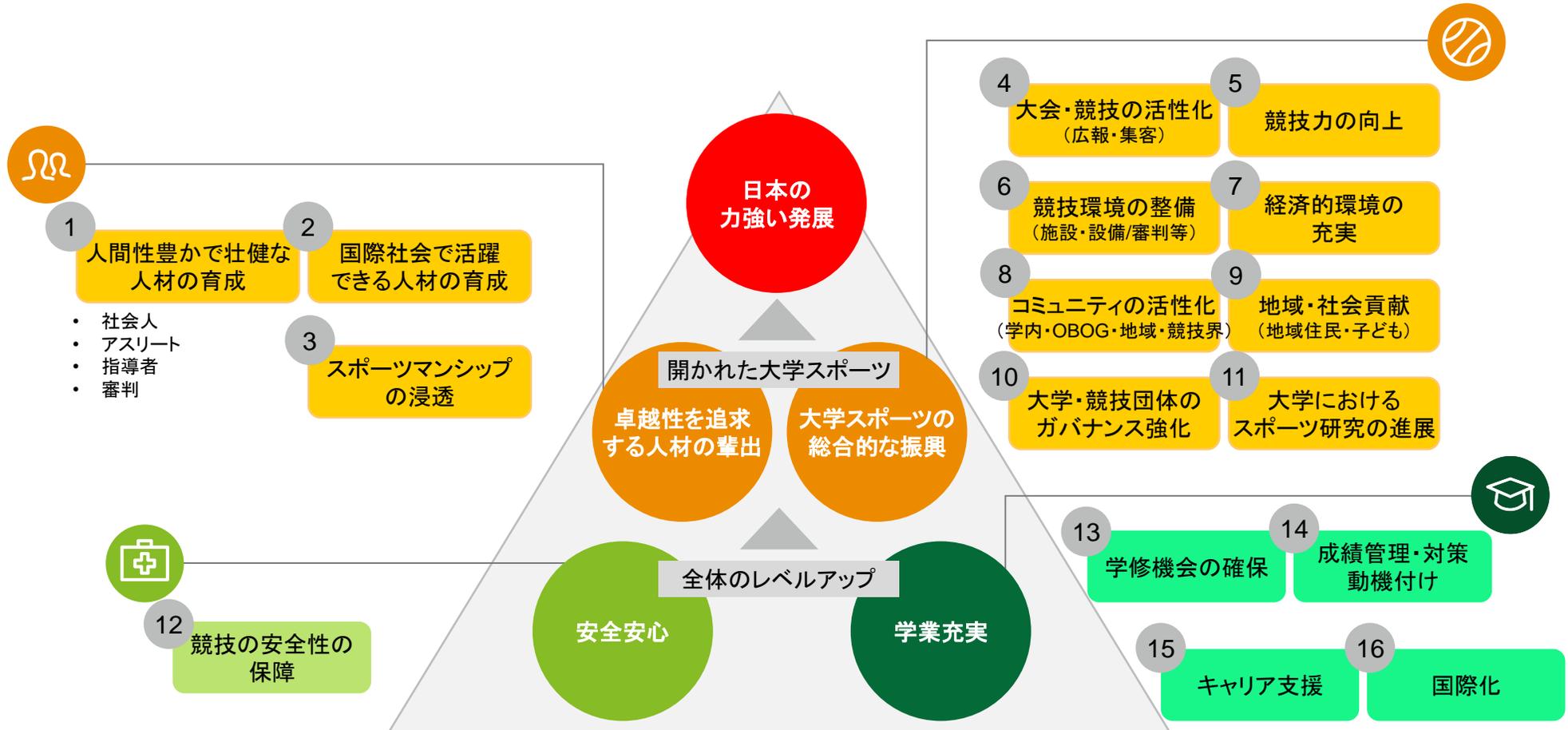
検討すべき事項

#	要検討項目	検討の方向性・今後の対応事項
1	表彰対象とする取組の範囲	競技内外問わず、理念の実現に資する取組をすべて表彰対象とする
2	具体的表彰項目	※次ページ以降参照 表彰対象候補案の絞り込み・選定を行う
3	選考対象期間・ 表彰式の開催時期	表彰式を大学スポーツの国際デー等に開催することも一案
4	選考方法・機関	選定された表彰項目に基づき、個別に選考方法・機関を検討する
5	表彰特典・賞品	奨学金・施設整備等学生・大学・競技団体等にどの程度魅力的な特典を提供できるかについては、資金原資の確保見込(スポンサー獲得見込)に照らして検討する
6	スポンサー (ネーミングライツ含む)	表彰式全体を対象として獲得を目指すのか、個別表彰項目を対象として獲得を目指すのかについて検討する(テーマ⑭と連携する)
7	表彰式の開催方法	詳細は来年度の検討事項とすることを想定
8	アンバサダーの設置	日本版NCAAの理念・事業・取組や大会等の広報を目的としたアンバサダーの設置を検討する

2-(2) 表彰制度案－ 設立理念の整理 (ver1.2)

定款目的
(最新案)

この法人は、**大学スポーツを総合的に振興**し、学生の誰もが**学業を充実**させながら**安全に**競技スポーツを実践するための基盤的環境を整備するとともに、地域に根差す大学スポーツの多様な価値を高め、**我が国の力強い発展**と**卓越性を追求する人材の輩出**に寄与することを目的とする。



日本版NCAA(仮称)の理念の実現を後押しする表彰制度を設計する

2-(3) 表彰制度案－表彰対象候補(案)①(ver1.2)

日本版NCAAの理念に照らして、候補として考えられる表彰対象項目案は以下のとおりです。

15テーマに関連する表彰項目案 <学業充実関連>

#	テーマ	主査	表彰対象項目	表彰案	内容	対象者	スポンサー	理念との関連 ※2-(2)参照
①	入学前からの動機付け	伊坂様	1 入学前からの取組促進	先進的取組事例に対する表彰	入学前からの動機付けに関する大学による先進的取組事例を表彰	大学 (AD局)	リクルート・教育	1,13
②	学修機会の確保	小林勝様	2 授業への出席率向上/出席できない場合の対応	先進的取組事例に対する表彰	学修機会の確保に関する大学による先進的取組事例を表彰	大学 (AD局)	リクルート・教育	1,13
" "	" "	"	3 学習時間を確保する取組	先進的取組事例に対する表彰	練習時間の削減と学習時間の確保に関する取組を表彰	大学 (AD局)	リクルート・教育	1,13
" "	" "	"	4 "	先進的取組事例に対する表彰	平日の試合開催を減らす取組を表彰	競技団体	リクルート・教育	1,13
③	成績管理・対策、さらなる動機付け	友添様	5 文武両道の推進	先進的取組事例に対する表彰／モデル学生アスリート	成績管理・対策に関する大学による先進的取組事例を表彰／文武両道を実践する模範となる学生アスリートを表彰	大学・学生個人	リクルート・教育	1,14
" "	" "	"	6 "	優秀選手・大学	例えば、競技成績上位3位以内+GPAや履修単位数の基準による表彰	大学・学生個人・指導者	リクルート・教育	1,14
④	キャリア支援	藤本様	7 キャリアの選択肢の提示	モデルOBOG	社会で現役学生の模範となるようなキャリアを形成しているOBOGを表彰	OBOG	リクルート・教育・旅行	1,15

2-(3) 表彰制度案－表彰対象候補(案)②(ver1.2)

日本版NCAAの理念に照らして、候補として考えられる表彰対象項目案は以下のとおりです。

15テーマに関連する表彰項目案 <安全安心・医科学関連>

#	テーマ	主査	表彰対象項目	表彰案	内容	対象者	スポンサー	理念との関連 ※2-(2)参照
⑤	事故情報の集約化	川原様	8 事故情報の集約徹底	先進的取組事例に対する表彰	事故情報の集約に係る先進的取組事例を表彰	大学 (AD局)	保険	12
⑥	共通ルールの設定	三宅様	9 安全対策推進	先進的取組事例に対する表彰	安全対策に関する大学／競技団体による先進的取組事例を表彰	大学・ 競技団体・ 指導者	保険	12
" "	" "	"	10 学生アスリートの意識向上	フェアプレー賞／ スポーツマンシップ賞	模範となるプレーをみせたチーム／学生アスリートを表彰	学生個人	保険	1,3,12
⑦	ガバナンスの体制構築、ハラスメントや暴力等に関する相談・対応体制の構築	戸田様	11 コンプライアンス強化	先進的取組事例に対する表彰	コンプライアンス強化に関する大学／競技団体による先進的取組事例を表彰	大学・ 競技団体	コンプライアンス強化に 取組む企業	10
" "	" "	"	12 ダイバーシティ推進	女性・障がい者 スポーツ賞	競技成績・社会貢献等において模範となる取組みを行った女性・障がい者アスリートを表彰	学生個人・ 競技団体	障がい者支援企業、化粧品	1
" "	" "	"	13 運動部の組織運営	先進的取組事例に対する表彰	理不尽な上下関係や部内ルールをなくした組織運営	大学 (AD局)	コンプライアンス強化に 取組む企業	3,10
⑧	指導者研修	佐藤様	14 指導者育成・意識向上	先進的取組事例に対する表彰	指導者意識向上プログラム等に関する大学による先進的取組事例を表彰	大学	保険・教育	3,12

2-(3) 表彰制度案－表彰対象候補(案)③(ver1.2)

日本版NCAAの理念に照らして、候補として考えられる表彰対象項目案は以下のとおりです。

15テーマに関連する表彰項目案 <事業・マーケティング関連 1/2>

#	テーマ	主査	表彰対象項目	表彰案	内容	対象者	スポンサー	理念との関連 ※2-(2)参照
⑨	大会レギュレーション・表彰制度整備	池田純	15 大学スポーツ・大会活性化	大学対抗戦成績	年間総合ポイント上位の大学を表彰	大学	全般	4,5
"	"	"	16 競技力向上	優秀選手賞	年間通じて優れた競技成績を残した学生アスリートを表彰	学生個人	全般	4,5
"	"	"	17 国際的な活躍	国際的優秀選手賞	<ul style="list-style-type: none"> • オリンピックやW杯に加え、ユニバーシアードや大学世界選手権で優秀な成績を収めた者+学業基準での表彰 • 国際大学スポーツ連盟が開催しているFISUフォーラムに学生を派遣し、そこで活躍した学生を表彰 	学生個人	全般	2,4,5,16
"	"	"	18 指導力向上	優秀指導者賞	年間通じて優れた指導成果を残した指導者を表彰	指導者	全般	5
"	"	"	19 縁の下の力持ち	マネージャー表彰	クラブ・競技のサポートにおいて優れた取組事例を残したマネージャーを表彰	マネージャー	全般	4
"	"	"	20 応援文化	ベストサポーター賞	大学を挙げて加盟競技の大会への応援が盛んであった大学を表彰	大学	全般	4
"	"	"	21 大会プロモーション	競技団体取組	競技普及のための競技団体による大会プロモーションに関する先進的取組事例を表彰	競技団体	全般	4
⑩	個別データ管理・活用	境田様	22 研究成果	先進的取組事例に対する表彰	大学スポーツの活性化や競技力の向上に資するAD局による研究室等との先進的取組事例を表彰	大学 (AD局)	全般	4,5,11
⑪	シェアードサービス	小林至様	23 n/a					

2-(3) 表彰制度案－表彰対象候補(案)④(ver1.2)

日本版NCAAの理念に照らして、候補として考えられる表彰対象項目案は以下のとおりです。

15テーマに関連する表彰項目案 <事業・マーケティング関連 2/2>

#	テーマ	主査	表彰対象項目	表彰案	内容	対象者	スポンサー	理念との関連 ※2-(2)参照
⑫	大学SA支援、マーケティング・会計ガイドライン	佐野様	24 学内環境整備:ソフト(AD局設置・SA配置)	先進的取組事例に対する表彰	学内統括部局の設置やSA配置に関する大学による先進的取組事例を表彰	大学(AD局)	全般	10
" "	" "	"	25 学内環境整備:ハード(グラウンド・スタアリ等)	先進的取組事例に対する表彰	大学スポーツの活性化のための施設整備に関する大学による先進的取組事例を表彰	大学(AD局)	全般	4~6
" "	" "	"	26 AD局・SAによる取組	先進的取組事例に対する表彰	地域・社会貢献活動、会計の透明性確保、スポンサーとの連携、試合情報の管理・発信、キャリア支援等大学スポーツ振興に向けた大学による各種の優良取組事例を表彰	大学(AD局) SA個人	全般	4~10
" "	" "	"	27 情報発信	大学スポーツメディア表彰	大学スポーツ新聞のコンテンツは既にあり、紙面作りなどで評価しているため、日本版NCAAの理念に沿う記事の掲載などを表彰	大学スポーツ新聞・放送局	全般	4
⑬	広報戦略の策定・展開	尾崎様	28 n/a					
⑭	スポンサープログラム	池田敦様	29 n/a					
⑮	組織整備	木藤様	30 n/a					

2-(4) 表彰制度案－ 設立当初からの表彰対象候補(案)(ver1.2)

表彰対象候補の中から、今後加盟要件となっていくべき項目などを基準に優先順位付けを行い、設立当初からの表彰対象とする項目を絞り込んでいく想定です。

設立当初からの表彰候補案

#	表彰項目案	内容	表彰対象者	候補者の抽出方法	理念との関連
1	Advanced Academic Opportunity Effort	学修機会の確保に関する先進的取組事例を表彰 <ul style="list-style-type: none"> 大学:練習時間の削減と学習時間の確保に関する取組 競技団体:平日の試合開催を減らす取組 	大学(AD局) 競技団体	申請 (自・他薦)	学修機会の確保
2	Role Model of Student-Athlete	文武両道を実践する模範となる運動部学生を表彰(競技成績上位+GPAや履修単位数の基準など)※テーマ③で検討	学生個人	学業成績 競技成績	成績管理・対策 動機付け
3	Advanced Academic Grade Effort	成績管理・対策に関する大学による先進的取組事例を表彰	大学(AD局)	申請 (自・他薦)	〃
4	Role Model of OB/OG	社会で現役学生の模範となるようなキャリアを形成しているOB/OGを表彰	OBOG	申請 (推薦)	キャリア支援
5	Advanced Safety Effort	安全対策に関する先進的取組事例を表彰	大学・競技団体・ 指導者	申請 (自・他薦)	競技の安全性の保障
6	Sportsmanship Award	スポーツマンシップあふれる模範となるプレー・取組を表彰	運動部・ 学生個人	申請 (推薦)	スポーツマンシップ の浸透
7	College of the Year	競技横断的の大学対抗戦における年間総合ポイント上位の大学を表彰	大学	競技成績	大会・競技の活性化 競技力の向上
8	Sportsman of the Year Sportswoman of the Year	年間通じて、大会等で優れた競技成績を残した運動部学生を表彰	学生個人	競技成績	大会・競技の活性化 競技力の向上
9	Excellent Promotion Award	大会・競技の普及や活性化のための大会プロモーションに関する優良取組事例を表彰	競技団体	申請 (自・他薦)	大会・競技の活性化 競技力の向上
10	Excellent Effort by College	地域・社会貢献活動、会計の透明性確保、スポンサーとの連携、試合情報の管理・発信、キャリア支援等大学スポーツ振興に向けた大学による各種の優良取組事例を表彰	大学(AD局) SA個人	申請 (自・他薦)	大学・競技団体の ガバナンス強化 コミュニティの活性化 地域・社会貢献

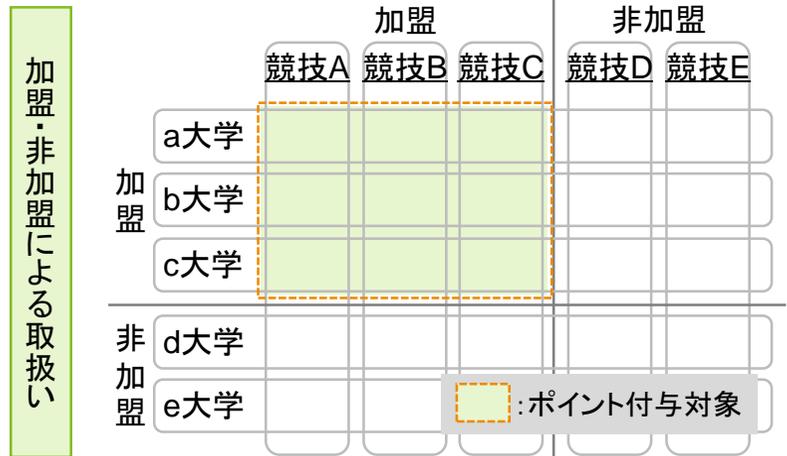
3. 競技横断的大学対抗戦のレギュレーション(案)①(ver1.1)

本テーマでの検討対象となる
“レギュレーション”の範囲

- ✓ ポイントの付与対象となる大学および競技団体の範囲
- ✓ 大会の開催期間(ポイントの集計対象期間)
- ✓ ポイントの付与対象とする大会の範囲
- ✓ 競技・大会ごとのポイントの配分方法(配点)
- ✓ ポイント報告・集計の仕組み
- ✓ 違反行為等に対する罰則(減点等)

競技横断的大学対抗戦(既存の大会を前提としたポイント制)の基本方針(案)

前提	<ul style="list-style-type: none"> • 各競技団体・連盟で開催されている既存の大会の枠組みはそのままに、競技成績等に応じたポイントを付与することにより、競技横断的な大学単位の年間総合順位を示すものとする
大会期間 (集計期間)	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月～翌年3月に開催された大会 ……通常の事業年度に整合させる考え方 ② 2月～翌年1月に開催された大会 ……表彰式を毎年2月もしくは3月(4年生の卒業前)に開催することを優先する考え方
参加大学	<ul style="list-style-type: none"> • 競技横断的大学対抗戦への参加対象は、全ての加盟大学とする (特に参加の意思表示を要さないこととする) • 加盟学連・NFに係る競技の大会における競技成績に 応じてポイントを付与する
ポイント付与 の対象範囲	<ul style="list-style-type: none"> • 加盟学連(NF)、加盟学連の傘下にある地区学連が主催する大学生のみを対象とする公式大会をポイント付与の対象とする ※ポイント付与の対象とする具体的な大会については各競技団体へ一任する
配点	<ul style="list-style-type: none"> • 次ページ案参照



3. 競技横断的対抗戦のレギュレーション(案)②(ver1.1)

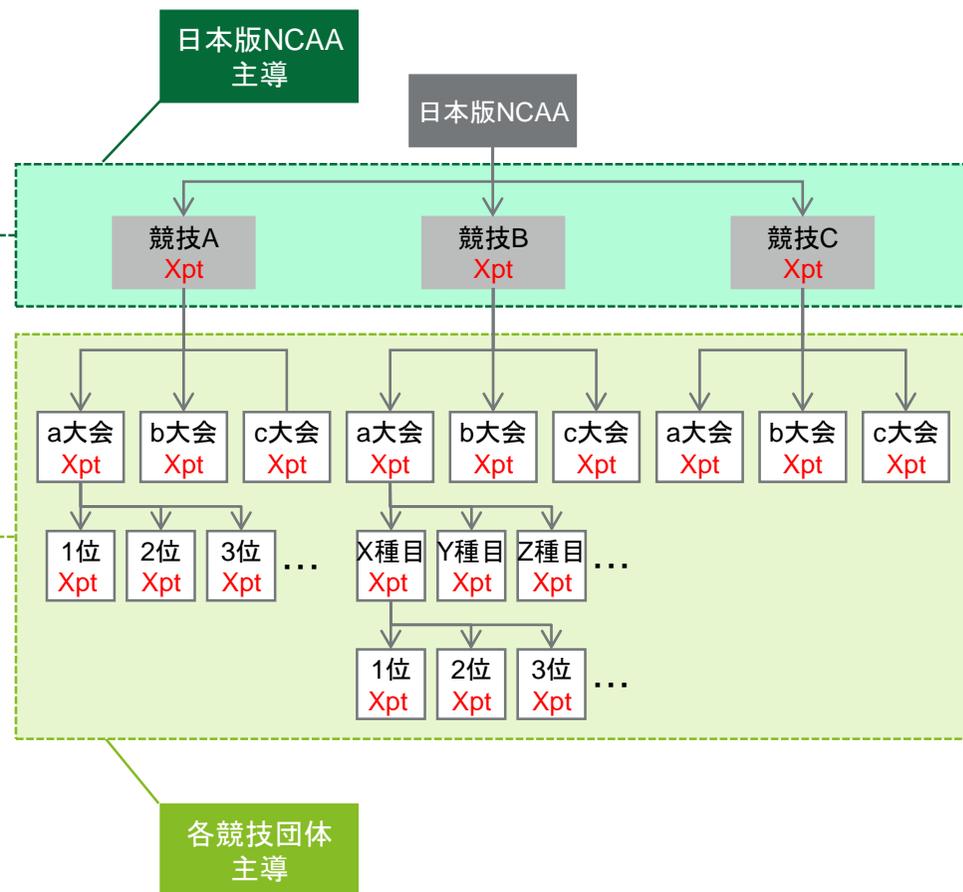
競技別・大会別等の配点方法(案)

手順1: 競技団体への配点

- 日本版NCAA(設立準備委員会作業部会)側で、毎期、各競技に付与する総ポイントを決定する
- 各競技への総ポイントの配分基準(案)
 - ① 加盟大学数—集計が容易である一方、加盟大学数は多いものの、競技者数が少ない競技などの事情が反映されない
X
 - ② 登録競技者数(もしくは出場競技者数)—競技者数という最も公平と考えられる基準による配分が可能である一方、毎年変動する競技者数の把握が困難な場合がある(対策:前年度までの過去3年平均を基準とするなど)

手順2: 各大会・順位に応じた配点

- 各競技に割り当てられた総ポイントに対して、**各個別大会における競技成績(順位)に応じた配分方法**については、**各競技団体へ一任する**
- 毎期大会期間の開始前に、各競技団体より日本版NCAAへ大会・種目・競技成績(順位)に応じた配点方法を提出する
(全体的視点から、各競技団体における配点方法の妥当性については日本版NCAA側でもチェックを行う)



3. 競技横断的大学対抗戦のレギュレーション(案)③(ver1.1)

その他検討すべき事項

#	要検討項目	内容	備考
1	罰則(ペナルティー)	<ul style="list-style-type: none">日本版NCAAの理念に反する行為の他、大会レギュレーションへの違反行為があった場合の取り扱い(減点等)について検討する	
2	競技成績(ポイント)の申告方法	<ul style="list-style-type: none">各競技団体からポイント付与対象となる大会における競技成績や獲得ポイントに関する報告を受ける体制を整備する必要がある	<ul style="list-style-type: none">競技成績を報告してもらえるよう競技団体側への理解醸成が必要
3	ポイント付与方法の詳細	<ul style="list-style-type: none">ポイント付与対象となる順位の中に、加盟大学と非加盟大学が混在している場合の取り扱いについて検討する	<ul style="list-style-type: none">例・・・1位:6pt～6位:1ptという割当ての大会で、加盟大学が1位と6位であった場合 案①:純粹に順位のみでポイントを付与 →1位の大学に6pt付与、6位の大学に1pt付与 案②:加盟大学内で総ポイントを配分 →1位の大学に6pt付与、6位の大学に5pt付与
4	対抗戦の盛り上げのための仕掛け	<ul style="list-style-type: none">競技横断的大学対抗戦がより学生他関係者から認知、注目され、盛り上がるようになるための仕掛けを整備していく必要がある	<ul style="list-style-type: none">複数の基準によるランキング(運動部活動数、所属する生徒数に応じたランキングなど)配点方法の均衡化(継続的な取組)賞品・賞金の充実(奨学金・施設整備など)HP等での広報・盛り上げ(迅速な速報掲載など)ビジネス誌とのタイアップ など

テーマ10

個別データの管理・活用

東京大学 理事
境田 正樹 氏

テーマ

【事業・マーケティング】 個別データの管理・活用

第4回作業部会(10/15)における報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① リサーチ体制検討部会の設置(京都大学:高瀬進/大阪大学:中田研、橋詰謙/東北大学:長神風二、荻島真一、永富良一/東京大学:境田正樹)
- ② データの種類や特性に応じた適切な取扱いと利用方法について
- ③ 機微性の高いデータ、要配慮個人情報などの取扱い

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① リサーチ・コーディネーションセンターの役割
- ② 大学AD内の研究支援センターの役割
- ③ 日本版NCAAに対し提出を義務付けるデータ(氏名、所属大学等)、任意に提出を求めるデータについて(バイタルデータ、体力測定データ等)

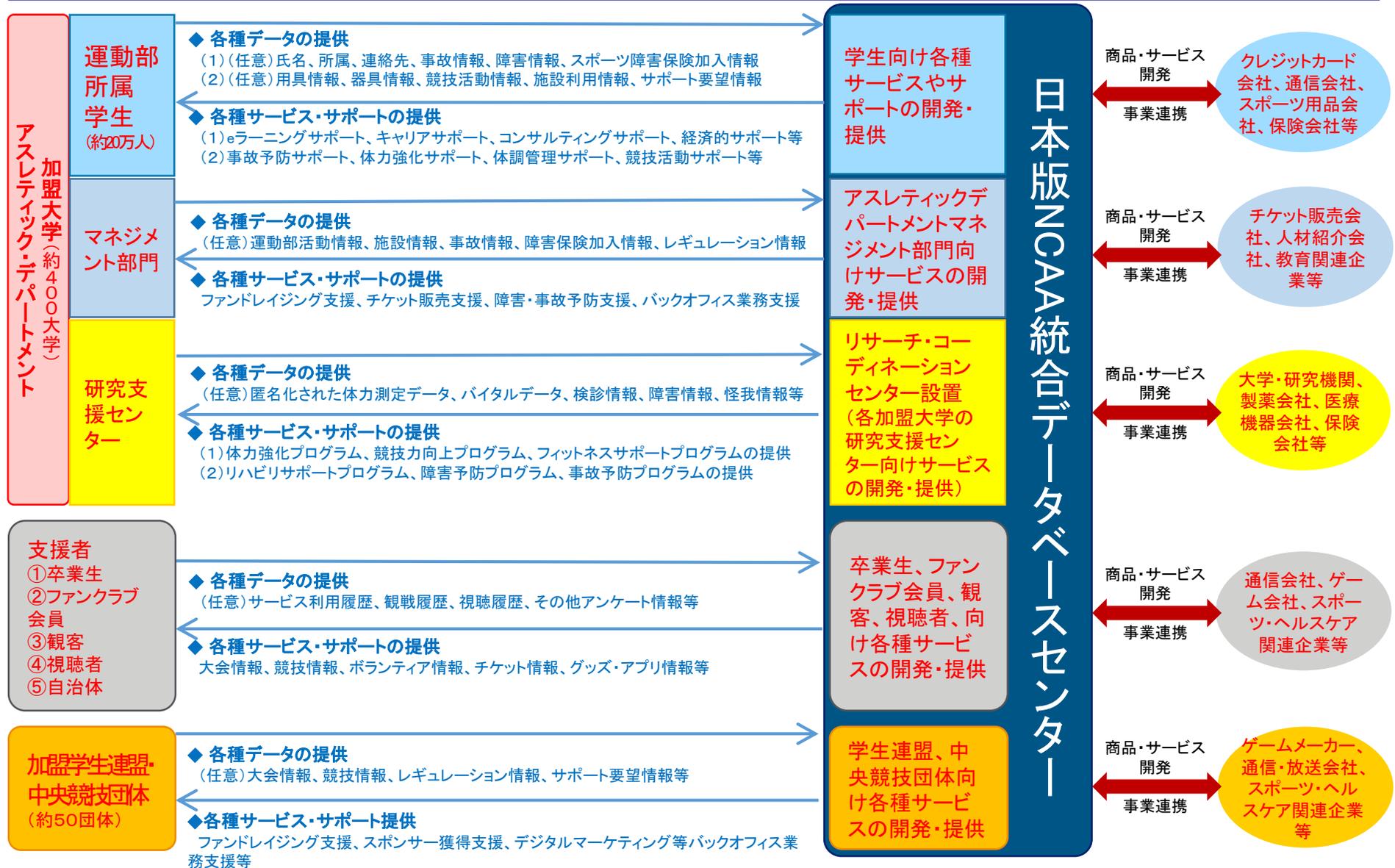
他テーマへの申し送り事項

- ① 「安全・安心・医科学 テーマ⑥安全に関するガイドライン」
学生アスリートからスポーツ障害情報、バイタルデータ、体力測定データ等を取得し、研究を実施するための体制構築
- ② 「事業・マーケティング テーマ⑪シェアードサービスの提供、テーマ⑭スポンサープログラムの策定、賛助依頼」
企業との新規商品、新規サービスの開発に向けての連携等

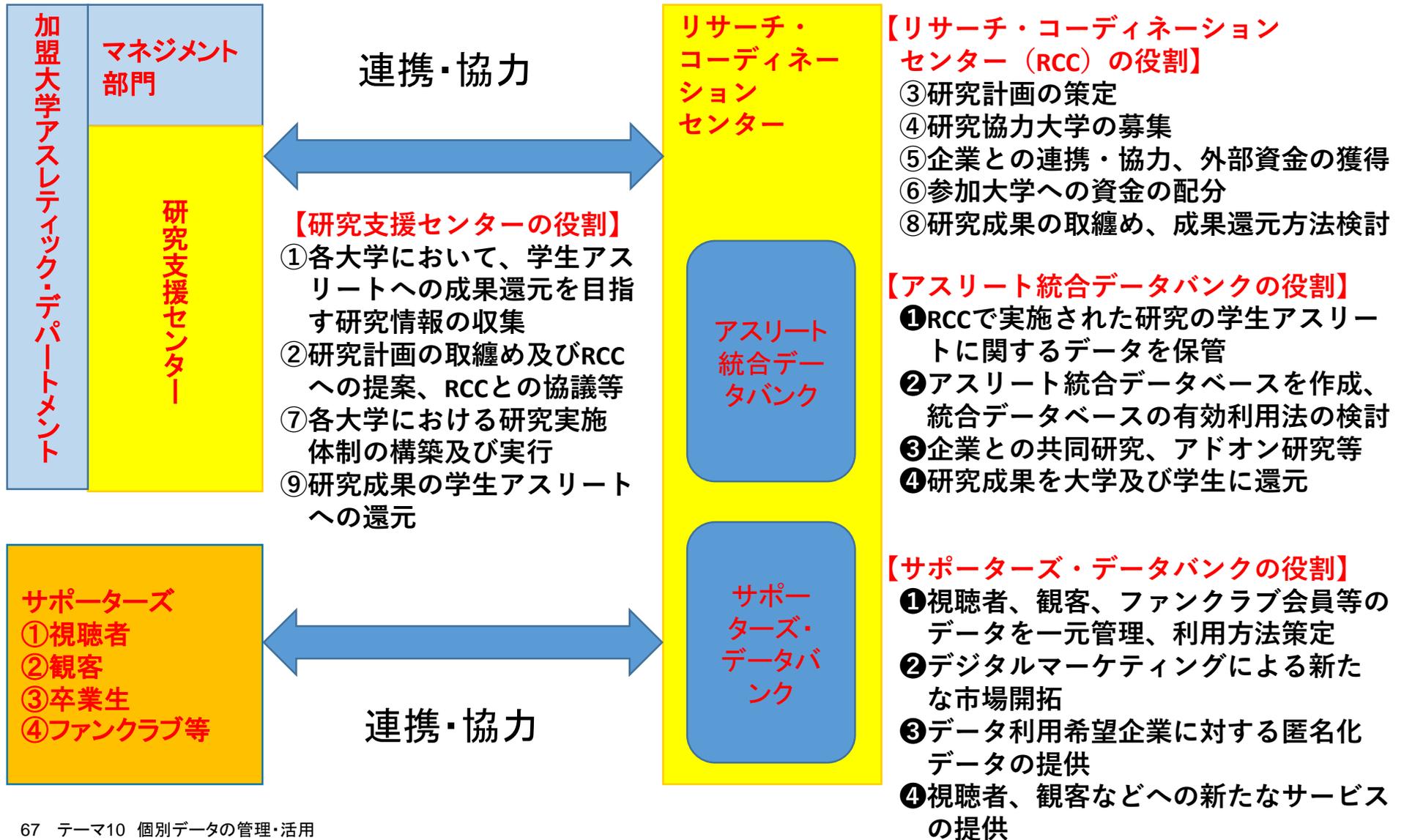
次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① データの種類や特性に応じた適切な取り扱いとデータの利用方法について
- ② 大学AD内の研究支援センターの具体的な役割

日本版NCAA構想における個別データの管理・活用(案)



日本版NCAA構想における個別データの管理・活用(案)



テーマ11

シェアードサービスの提供

江戸川大学 社会学部経営社会学科 教授
小林 至 氏

テーマ

【事業・マーケティング】 シェアードサービスの提供

第4回作業部会(10/15)における報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① 映像配信事業・HP製作の開設準備を委託する業者の選定
- ② 「事業マーケティング」の他のテーマとシェアードサービスの連携の必要性についての確認
- ③ 上記、映像配信事業を行う上で、既存の各学連の映像配信に関する取り組みの調査
- ④ 来春の映像配信開始に向けたスケジュールの策定及び、テスト配信の検討

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 映像配信事業者との綿密な計画づくり 各学連との正式な映像配信に関する調整(権利処理の方法について: 配信料購入型、共同事業型、配信協力型など)が必要であることを確認
- ② 映像配信を行うコストの算出と捻出についての考え方の整理が必要

他テーマへの申し送り事項

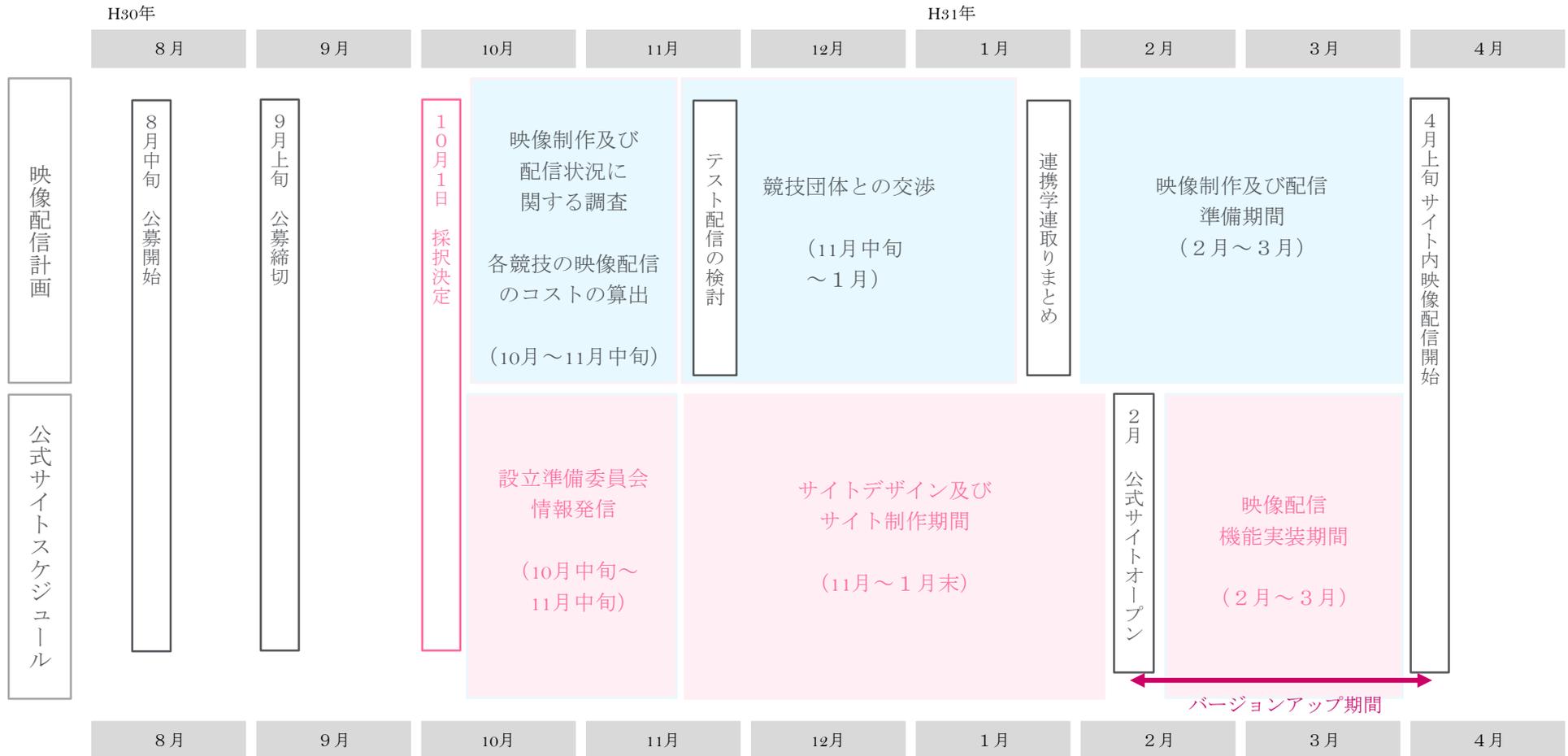
- ① 「事業・マーケティング」に限らず、対内、対外ともに、多くのサービスが、シェアード・サービス(サイバー空間)を介して行うことが出来ることと、利用者にとって、サイバー空間を活用することで、利便性の向上および費用削減に寄与することが出来ることについて、確認をしたい。

次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① シェアードサービスの核となる映像配信事業に関するサービスの概要とメリットについて報告する。
- ② 可能であれば、どのような競技、大会の映像配信をしていくかの予定についても発表する。
- ③ サイト運営および配信に伴うコストの算出と、その費用の捻出についての考え方の整理。

スケジュールについて

来春の映像配信開始に向けて、
11月から各学連との交渉を開始。
交渉に先立ち、テスト配信の実施も検討中。



テスト配信について

今後、各学連と話を進めていく上で、
指標となるテスト配信にしていく予定。

以下の2つのパターンを検討中。

※公式HP立上げ前なので、スポーツ庁HP及びSPORTS BULL上での配信を検討

他の学連への指標ともなりえる競技

大学スポーツの中でも注目率が高く、他の学連へ対して指標となりやすい競技。

候補① 野球 明治神宮野球大会

<候補試合>

- ・日程：2018年11月8日～14日
- ・主催：明治神宮・（公財）日本学生野球協会
- ・場所：明治神宮野球場
- ・決勝：2018年11月14日（水）12時00分～
- ・既存配信：skyA、SPORTS BULL

候補② サッカー 全日本大学サッカー選手権大会

<候補試合>※昨年参考データ

- ・日程：2017年12月13日～24日
- ・主催：日本サッカー協会、全日本大学サッカー連盟
- ・場所：浦和駒場スタジアム
- ・決勝：2017年12月24日（日）11時55分～
- ・既存配信：ジェイネットTV、BS朝日（決勝）

候補③ バスケ 全日本大学バスケットボール選手権大会

<候補試合>※昨年参考データ

- ・日程：（男）2017年11月20日～26日（女）11月28日～12月3日
- ・主催：日本バスケットボール協会、全日本大学バスケットボール連盟
- ・場所：（男）青山学院大学青山キャンパス（女）カメイアリーナ仙台
- ・決勝：（男）11月26日14時00分～（女）12月3日14時00分
- ・既存配信：J-SPORTS、ジェイネットTV

ライブ配信の効果がわかりやすい競技

今まで、テレビ局などでの中継の機会は少ないため、ライブ配信の取り組みによる学生のモチベーション変化などが図りやすい競技。

候補① ラクロス 全日本ラクロス大学選手権

<候補試合>

- ・日程：2018年11月4日～25日
- ・主催：日本ラクロス協会
- ・場所：駒沢オリンピック公園 総合運動場 陸上競技場
- ・決勝：2018年11月25日（日）調整中
- ・既存配信：なし

候補② ハンドボール 全日本学生ハンドボール選手権大会

<候補試合>

- ・日程：2018年11月10日～14日
- ・主催：日本ハンドボール協会、全日本学生ハンドボール連盟
- ・場所：丸善インテックアリーナ大阪
- ・決勝：2018年11月14日（水）
- ・既存配信：ジェイネットTV

候補③ テニス 全日本学生室内テニス選手権大会

<候補試合>

- ・日程：2018年11月25日～12月2日
- ・主催：全日本学生テニス連盟
- ・場所：江坂テニスセンター
- ・決勝：2018年12月2日（日）
- ・既存配信：なし

テーマ12

大学SA支援、マーケティング・会計 ルールに関するガイドライン整備

日本体育大学 スポーツアドミニストレーター

佐野 昌行 氏

テーマ

【事業・マーケティング】 大学SA支援、マーケティング・会計ルールに関するガイドライン整備

第4回作業部会(10/15)における報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① AD局の役割についての手引書(大学スポーツ振興のための学内整備手引書)の目次について検討した
- ② 手引書の項目の一部の執筆担当を他作業部会主査に依頼した(10/19締切(仮))
- ③ 手引書の項目のうち、テーマ12担当箇所を執筆した
- ④ 手引書に含む事例作成のため、スポーツ庁事業の委託先大学にアンケートを送付した(10/19締切)
- ⑤ 手引書に含む事例作成のため、海外事例の調査結果をまとめた

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① 手引書を活用し、各大学におけるAD局の設置状況について点検・支援していく体制が求められるのではないか。整備された大学に対しインセンティブを与えることも考えられるのでは(表彰など)
- ② NCAAもしくは地域ブロック部会と各大学AD局との関係について検討・整理する必要があるのではないか

他テーマへの申し送り事項

- ① 引き続き、手引書の執筆についてご協力をお願いいたします
→各テーマ内で整理・検討された事項をまとめていただくようなイメージです
→もしもお近くの大学における先進的な事例があれば、ご記載いただけますと幸いです
→特に加盟要件に係る内容は重要事項となりますので、速やかに作成いただきたいと存じます

次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① 手引書の初稿
→各作業部会からの原稿をとりまとめる
→委託先大学へのアンケート結果を「先行事例」として手引書に反映させる
→用語や文体等をそろえる

テーマ

【事業・マーケティング】 大学SA支援、マーケティング・会計ルールに関するガイドライン整備

添付資料

『AD局の役割についての手引書』目次案

はじめに
第一章 統括部局(AD局)の必要性
1 統括部局(AD局)とは
2 統括部局(AD局)設置による効果
第二章 統括部局(AD局)の役割
1 ガバナンス関連
1 学内クラブガバナンスの体制構築
2 コンプライアンス
3 指導者の人事
4 指導者の資質・能力・意識向上
5 会計の透明性確保
6 危機管理体制の構築
2 学業充実関連
1 学生アスリートの入学前からの学修への動機づけ
2 学生アスリートの学修機会の確保
3 学生アスリートの成績管理・対策
4 学生アスリートの在学中の学業への動機づけ
5 学生アスリートのキャリア支援
3 安全安心・医科学関連
1 事故情報の集約
2 事故発生時の対応体制の構築
3 学研災・学研賠以外の保険への加入
4 ハラスメントや暴力に関する相談・対応体制の明確化
5 医師(医療機関)との連携
6 研究コーディネート

4 事業・マーケティング関連
1 情報の集約と発信
2 スポーツによる収益活動
3 企業等外部団体との提携・連携
4 ブランディング
5 地域・社会貢献活動
第三章 統括部局(AD局)の組織整備
1 統括部局(AD局)の設置
1 設置形態
2 運営規則等
3 AD局内の組織図・組織内の担当部課等
4 組織内の配置人材の職域と人数
2 SAの配置
1 職域と人数
2 職域のメリットとデメリット
3 SAに求められる資質や能力

個別項目フォーム

- (1) (当該役割が)必要とされる理由
- (2) AD局が担うべき役割・行うべき事柄
- (3) 実践例(先行事例)
- (4) その他、AD局の役割について必要と思われる事項または参考となる事項

2~4
ページ

テーマ13

広報戦略の策定・展開

桜美林大学 スポーツ推進センター部長
尾崎 幹男 氏

テーマ

【事業・マーケティング】 広報戦略の策定・展開

第4回作業部会(10/15)における報告内容

今回の作業部会までに作業・検討した内容

- ① 公式ホームページ製作者選定
公募期間:8/14~9/7 → 技術審査委員会を経て正式決定した。
(株)運動通信社(ブランド名「スポーツブル」)
- ② 各作業部会の進捗一覧表作成
プロジェクト全体の進捗を把握し、タイムリーな広報活動を実施する広報計画作成に活用する。
- ③ 第2回設立準備委員会(10/22)後の広報
スポーツ庁ドメイン内にて「新規法人名称・概要・設立時会員募集予定等」を告知する。

上記検討の中で明らかとなった論点又は課題

- ① スポーツ庁ドメイン告知から新・公式サイトへのスムーズな移行。
- ② スポーツブル現有サイトの活用法。
- ③ Line、Twitter、Facebook、YouTube、InstagramなどSNSの効果的活用法。

他テーマへの申し送り事項

- ① 各テーマごとに対外的に情報発信すべき内容を検討し、優先順位付けをしてください。
- ② スポンサープログラム作業部会およびシェアードサービス作業部会との緊密な連携が必要。

次回の作業部会における報告事項(予定)

- ① 公式ホームページの構成・デザイン素案など。
- ② ロゴマークの公募要領。
- ③ 新規法人設立前後のシンポジウム／キャンペーン企画案。

テーマ

【事業・マーケティング】 広報戦略の策定・展開

添付資料

設立準備委員会

作業部会

⑨ 大会・表彰

- 競技横断的の大学対抗戦
- 表彰制度

⑩ 個別データの管理・活用

- 個別データの管理・活用案の取りまとめ・来年度からの運用

⑪ シェアードサービス

- プラットフォーム構築
- 主要大会映像のネット配信

⑫ 学内整備ガイドライン

- 学内整備に関する手引書策定

⑬ 広報戦略の策定・展開

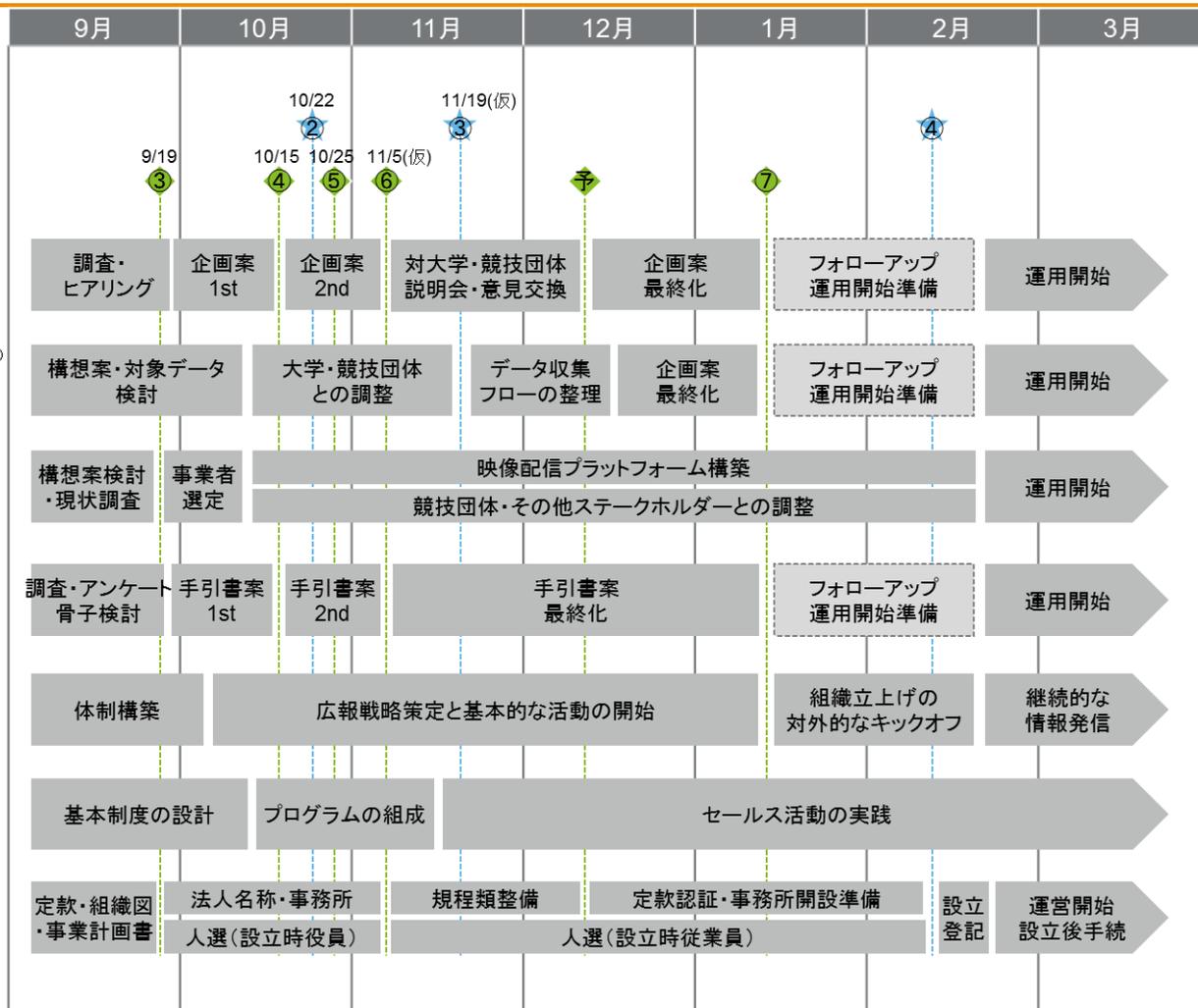
- HP整備
- 広報戦略策定・対外的広報

⑭ スポンサー・賛助

- スポンサー獲得

⑮ 組織整備

- 法人設立
- 組織体制整備



第3回設立準備委員会のご案内

第3回設立準備委員会の概要は以下の通りです

1. 開催日時:2018年11月19日(月)
2. 開催場所:文部科学省3階 第1講堂

3. 議事(予定)
 - (1)開会
 - (2)第3回設立準備委員会の進め方について
 - (3)学業充実に係る事項(テーマ1~4)の承認
 - (4)安全安心・医科学に係る事項(テーマ5~8)の承認
 - (5)事業・マーケティングに係る事項(テーマ9~13)の承認
 - (6)第4回設立準備委員会のご案内
 - (7)閉会

※議事につきましては、変更となる場合がございますのでご了承ください

※傍聴(報道関係者含む)の受付につきましては、改めてご案内いたします